

2019年度SDGs未来都市等提案書(提案様式1)

平成31年 3月 5日

西粟倉村長 青木 秀樹 印

提案全体のタイトル	森林ファンドの活用で創出するSDGs未来村
提案者	西粟倉村
担当者・連絡先	

1. 全体計画 (自治体全体でのSDGsの取組)

1.1 将来ビジョン

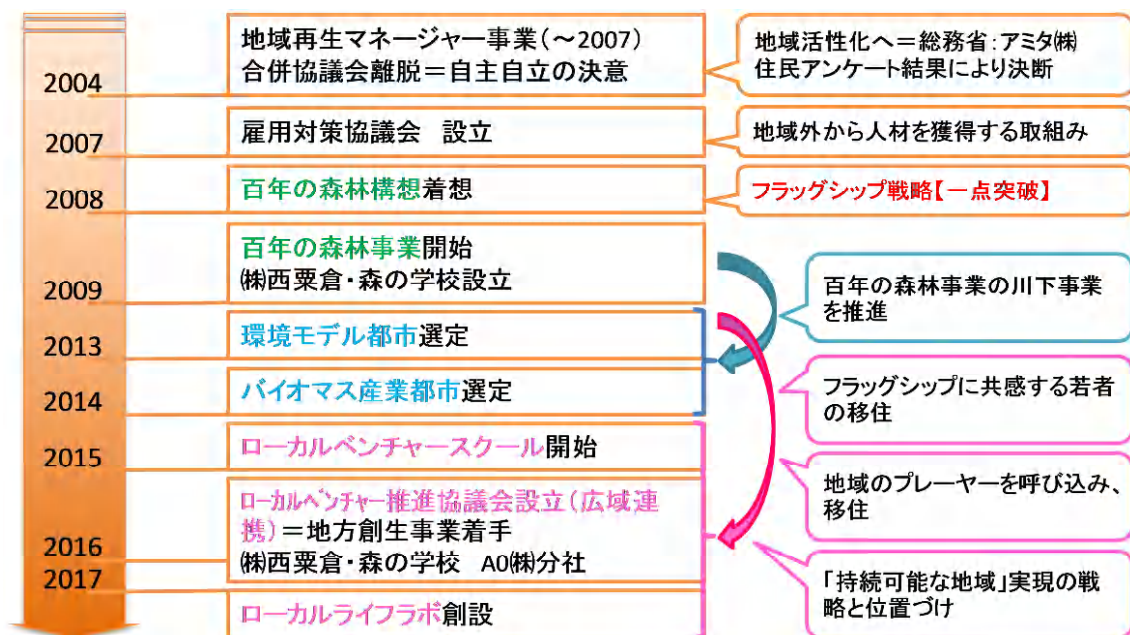
(1) 地域の実態

(地域特性)

中国山地の山あい岡山県最北東端に位置する西粟倉村は、江戸時代から参勤交代に使われた因幡街道沿いにあり、明治22年に現在の村が形づくられてからは、単独自治体として現在に至る。

平成の大合併でも単独自治体として残ることを選択してから、主たる産業もない中、2008年に「百年の森林構想」(添付資料参照)に着想し、財産価値を失い放置されつつあった、50年前に子や孫のためにと植林された人工林をもう50年、村が責任を持って森林を整備し、「百年の森林に囲まれた上質な田舎」を実現するため、第1次産業の林業を主軸に地域再生への道を歩み出す。

【西粟倉村の歩み】



2009年から、50年後のあるべき森林の姿からバックキャストした森林施業を開始、搬出される間伐材に付加価値をつけて販売する(株)西粟倉・森の学校を設立し、民間事業者と連携した独自の経済循環を創り出してきた。

2013年に環境モデル都市、2014年にバイオマス産業都市の認定を受けると、老朽化した小水力発電所のリニューアルを実施し、これまで市場流通すること無く山林に放置されていた粗悪材を、村内温泉施設の温泉を沸かすエネルギーとして利用する循環を構築するなど、再生可能エネルギー事業にも取り組んできた。

一方で「百年の森林構想」の理念に共感する若者達の移住が散見されるようになり、地域に様々なプレーヤーが存在してきた。このような流れを加速させるため、2015年から、「起業+移住」をコンセプトとした「ローカルベンチャー（地方でのベンチャー的起業）スクール」プログラムを開始した。これらの取り組みが注目を集めると、ローカルベンチャーとして起業する人や関係者の移住が増加し、人口の社会増や地域の子どもの数も約20%増加（村内園児・児童・中学生：2011年対比）など一定の成果を上げつつある。

（今後取り組む課題）

百年の森林構想の着想から10年が経過し、個人所有者約1500人の内約半数の所有者（約1600ha）と村が長期施業契約を締結しており、今後の課題としては、山林所有者形態の多様化や過疎化による所有権の都市部への流出に対応しながら、地域での森林利用権を保全していくことである。森林商事信託の開発、株式会社百森による事業民営化等対策を打ちつつ、個人所有者との長期施業契約だけでなく、地域森林の経営・サステナビリティの向上のための、皆伐後の新植を含めた新しい長期森林経営の戦略が必要となってきた。

また、百年の森林事業、再生可能エネルギー事業、ローカルベンチャー事業と地域の持続可能性を模索する挑戦を重ねてきたが、道半ばであり、今後も強力に取り組んでいく必要がある。特に社会面は、教育・福祉の地域の充実が、地域経営の上で重要と考えており、地域の人材を育てる力や、全世代対応福祉の充実、関係人口の拡大や巻き込みなどの取り組みを推進していくことで、「百年の森林に囲まれた上質な田舎」の実現を目指す。

さらに、こうした地域のサステナビリティを向上させるための様々な戦略に必要な「地域に投資する資金」をどのように調達していくかも課題である。

（2）2030年のあるべき姿

【2030年のあるべき姿】

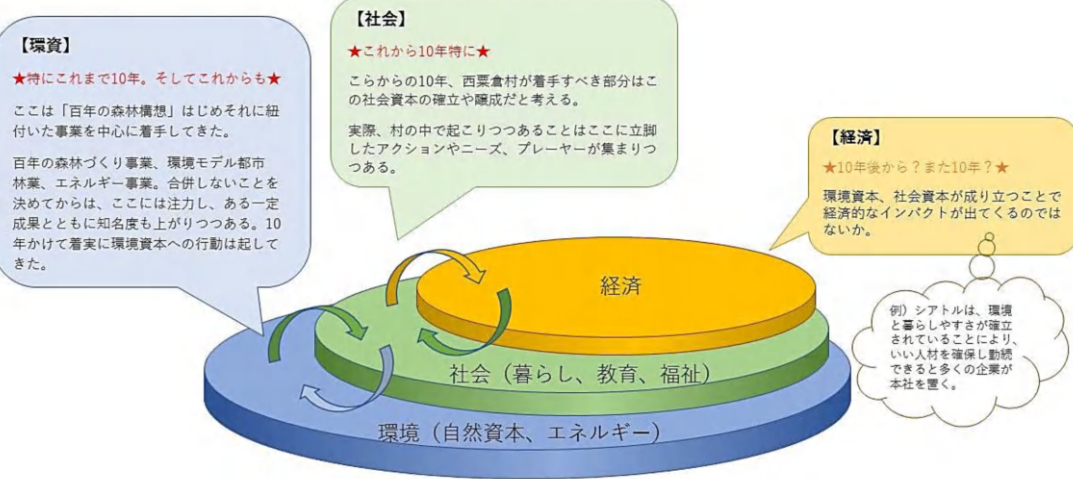
これまで「百年の森林構想」の着想から、地域の森林資源の活用を起点に、自然資本の充実とそこから生まれる地域経済の拡充に取り組んできた。

今後2030年に向かって「brighten our forests, brighten our life, brighten our future!! 生きるを楽しむ」をキャッチコピーに、ひとり一人の人生にフォーカスした取組を広げていくこととしている。そうした取組により、様々な地域に暮らす人達が、それぞれの役割を担い、楽しみながら暮らすことができる「百年の森林に囲まれた上質な田舎」を2030年に実現していることを目指す。

【 “ brighten our forests, brighten our life, brighten our futuer!!生きるを楽しむ ” の考え方】

SDG s を取り入れた村のこれから

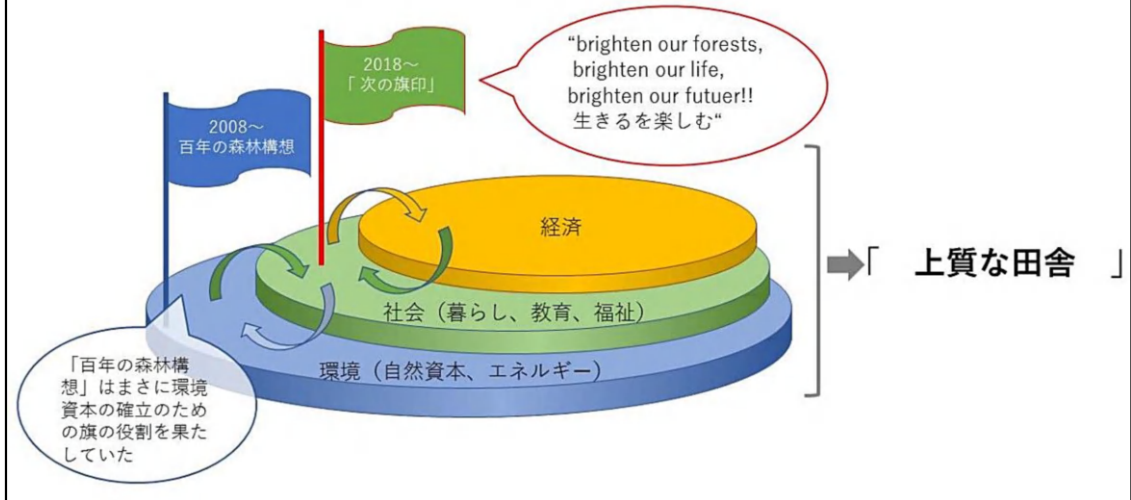
★SDGsの構造整理を下敷きにし、西栗倉村のこれまでとこれからを整理。



【 “ brighten our forests, brighten our life, brighten our futuer!!生きるを楽しむ ” の位置づけ】

SDG s を取り入れた村のこれから

★SDGsの構造整理を下敷きにし、西栗倉村のこれまでとこれからを整理。



また、「百年の森林構想」を守り続けていくことで、着想から50年後の2058年には、木材資源の循環と景観、経済林と環境林のバランスに配慮した、持続可能な森林環境“百年の森林”を実現し、さらに進化した「百年の森林に囲まれた上質な田舎」にいていくことを目指す。

これまでの取り組み成果と上質な田舎へ



百年の森林事業 林業六次化

百年の森林構想

- ビジョンの設定と地域外への発信力
- 一点突破≠総花的

LV事業 再生可能エネルギー

林業関連の起業 と移住

- 百年の森林構想への共感
- 移住と起業が散見される

社会資本拡充 生きるを楽しむ

多様な地域生態 系の醸成

- 多様な事業が地域内に発現
- 若者・子ども増加
- 起業による事業者の増加




上質な田舎へ

- 持続可能な地域創出
- 福祉、教育、コミュニティ等社会資本の充実
- 百年の森林実現
- RE100





(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット

(経済)

ゴール、 ターゲット番号	KPI(任意記載)	
 8, 3	指標: ローカルベンチャー事業発生数	
	現在(2019年3月): 34事業	2030年: 50事業


産業の少ない本村において、地域外からの「起業+移住」のローカルベンチャー施策の推進により、地域産業の多様化、雇用創出に一定の効果を上げてきており、今後は、これらの取組を更に拡充させると共に、これまで生まれてこなかった、ソーシャルビジネスローカルベンチャーを生み出し、社会資本の充実を図ることで持続可能な地域を目指す。


(社会)

ゴール、 ターゲット番号	KPI(任意記載)	
 3, 8	指標: 福祉系ローカルベンチャー事業数	
	現在(2019年3月): 2件	2030年: 4件
 4, 7	指標: 教育系ローカルベンチャー事業数	
	現在(2019年3月): 1件	2030年: 3件

「1. 経済」で記載しているソーシャルビジネスを育成し、特色ある教育、地域にあった福祉医療分野のサービスを創出し、「brighten our forests, brighten our life, brighten our future!! 生きるを楽しむ」をキャッチコピーに推進する、ひとり一人が人生を楽しめる地域づくりのための社会資本を充実させる取組で持続可能な地域を目指す。

(環境)

ゴール、 ターゲット番号	KPI(任意記載)	
 7, 2	指標: 再生可能エネルギーによるCO2削減量	
	現在(2019年3月): 20t-CO2	2030年: 3500t-CO2

	15,2	指標: 百年の森林事業森林施業面積	
	15,4	現在(2019年3月): 約 1580 ha	2030年: 約 3000 ha

2008年に「百年の森林構想」に着想、2009年から間伐を中心に放置されてきたスギ・ヒノキの人工林を村が集約化し施業する「百年の森林事業」を実施、林業6次化と産業創出で地域内に経済を生み出し、間伐施業で搬出されるC材を薪燃料として地域内循環の仕組みを構築も構築した。しかしながら、百年の森林事業も目標集約面積の未だ50%程度であり、今後引き受け面積を拡大し劣化した森林の回復と持続可能な山林開発を行っていくため、2019年度から三井住友信託銀行及び住友林業と提携して商品化する森林商事信託の実現、民有林の買い取りによる村有林化を行う。これらの取組から搬出される木材の資源利用として、小型バイオマス熱電併給事業の導入により地域内資源利用と再生可能エネルギー利用拡大を促し、持続可能な地域を目指す。

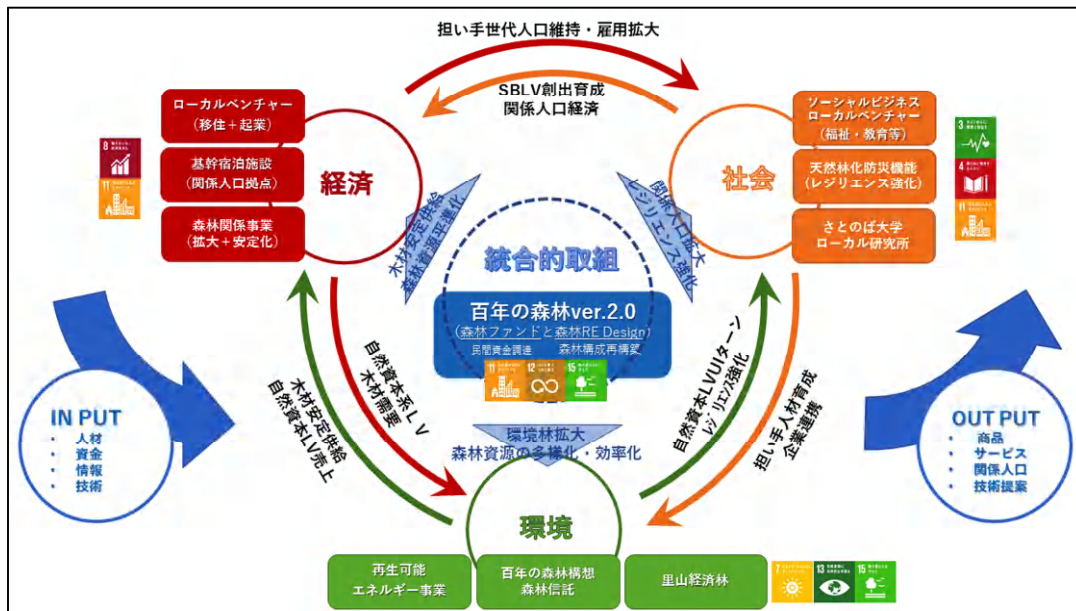
1.2 自治体SDGsの推進に資する取組

(1)自治体SDGsの推進に資する取組

【全体概要】

本村の自治体SDGsの推進に資する取組の全体像を下図に示す。

【自治体SDGsの推進に資する取組の全体像】



【西粟倉村百年の森林モデルとして、ローカルベンチャー推進協議会等を通じて全国自治体等への横展開】

これまで、森林施業と林業六次化による産業育成や小水力及びバイオマス等の再生可能エネルギー（環境）の取組み、さらに「仕事+移住」をコンセプトに「ローカルベンチャー」（経済）の取組みを行ってきた。これらの取組みにより、村の人口減少は緩慢化し、子どもの人口が増加し、森林関係事業やその他の事業の創出による地域経済は、森林関係事業だけでも約1億円から約8億円と従前の8倍にも成長し、村内での起業の増加や雇用創出がおきてきた。

また、昨年度からは、教育や福祉分野、暮らしの多様性に挑戦するプロジェクトに着手し、これまで、林業を中心とした産業傾注であった取り組みに、社会資本の充実を進めている。

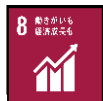
人口1,500人の村が持続可能であるためには、環境・社会・経済がバランスよく発達していること、これらを実現する人材を確保することが重要であり、さらには、村外の多様な人たちとの開かれた重層的な多様で創発的な関係性の中で発達させていく必要がある。

今後は、百年の森林事業を幹に、再生可能エネルギー、ローカルベンチャーと枝葉を茂らせてきたものを、更に発展・深化させていくとともに、社会資本の充実を図っていく方針である。

そのために、幹である百年の森林事業を次のステップへと進み「百年の森林」を形成していくための森林構成を再編、村が管理する森林面積を拡大し、森林資源価値の多様化と資源

利用の安定化を図る。また、こうした取組に必要な投資資金を民間調達する仕組みを構築することで、まずは「お金にひも付く関係人口コミュニティ」を構築し、西粟倉ファンへと育てることにより、「西粟倉村へ関わる関係人口拡大」へとつなげていくことを目指す。

ローカルベンチャー


ゴール、 ターゲット番号	KPI(任意記載)	
 8, 3	指標: ローカルベンチャーの新規事業数	
	現在(2019年3月): 34 事業	2021年: 45 事業

ローカルベンチャーエコシステムの持続可能な資金スキームの構築することで、ローカルベンチャーエコシステムの継続、拡充を行うことができる。

持続可能なローカルベンチャーエコシステムにより、村内でローカルベンチャーが増殖し、様々にヒト・コト・モノが発生していくことで、地域の価値や魅力が上昇する状況を創り出していきいことを目指す。


これまで、ローカルベンチャーは森林資源を起点に増殖し始め、今ではそれまで地域になかった物づくりやサービスが生まれてきた。今後は、森林・再生可能エネルギー関係に加え、人やコミュニティ、人生と言ったことにフォーカスし、現在不足しているソーシャルビジネスローカルベンチャーを発生させていくことで SDGs ターゲットを増やしていく。

ソーシャルビジネスローカルベンチャー

ゴール、 ターゲット番号	KPI(任意記載)	
 4, 7	指標: 教育系ローカルベンチャー事業数	
	現在(2019年3月): 1 件	2021年: 3 件

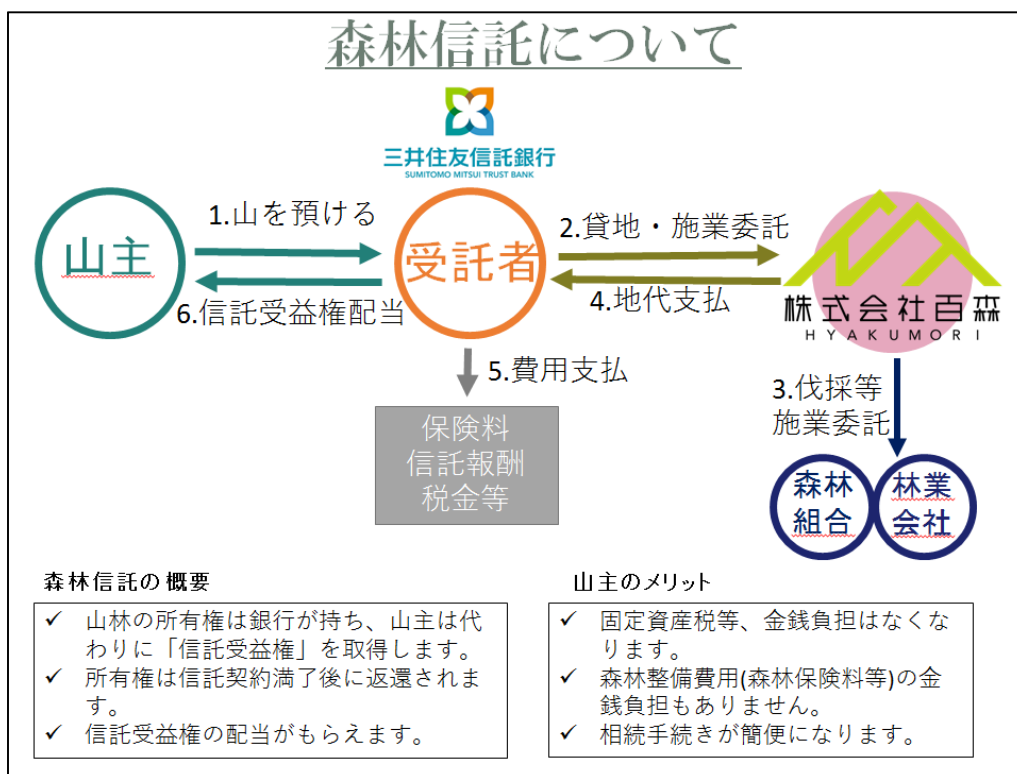
「brighten our forests, brighten our life, brighten our future!! 生きるを楽しむ」をテーマに地域を教材にした教育コンテンツの創造、子ども・障がい者・高齢者・妊産婦など誰もが安心して健康に楽しんで人生を歩んでいけるためのコンテンツの創造、これらを担うソーシャルビジネスローカルベンチャーを地域に生み出し、育む取組をおこなう。

百年の森林事業

ゴール、 ターゲット番号	KPI(任意記載)	
 15, 2 15, 4	指標: 百年の森林事業森林施業面積	
	現在(2019年3月): 約 1580 ha	2021年: 約 1900 ha

ローカルベンチャースクールから誕生した株式会社百森と村、三井住友信託銀行が共同して、再生可能エネルギーである小水力発電事業の新設×森林信託を活用した森林整備の研究等を行い、新しい森林経営にチャレンジしている。また、今後は、こうした取組も利用しながら「百年の森林事業」を拡大し、ローカルベンチャー事業等から新たな林業経営、林業事業体を生み出し、地域森林資源の価値の最大化を図る取組を行い、森林環境劣化の回復を推進するモデルケースとなり、全国に横展開できることを目指す。

【森林商事信託スキーム】



(2) 情報発信

(域内向け)

地域内では、人口 1500 人弱の小規模自治体ではあるが、平成 28 年 9 月に神戸大学生産環境工学コース地域共生計画学教育研究分野の長野宇規准教授を迎え、SDGs についての勉強会を開催した。また、岡山県山陽学園大学地域マネジメント学部と中山間地域における SDGs 普及について、共同の取組を予定している。今後は、村の様々な取組を SDGs に反映させ、地域内に紹介していくことで SDGs の普及啓発に取り組む。また、ソーシャルビジネスローカルベンチャーの一貫として、子供向けの「あわくらみらいアカデミー」では環境教育や SDGs 教育を実践し、地域内の子供にも普及啓発をおこなっていく。

(域外向け(国内))

自治体 SDGs の普及については、現在ローカルベンチャー推進協議会(代表幹事:岡山県西粟倉村)に加入している下川町・厚真町(北海道)、釜石市(岩手県)、石巻市・気仙沼市(宮城県)、七尾市(石川県)、上勝町(徳島県)、雲南市(島根県)、日南市(宮崎県)、平成 30 年度から協議会に加盟する南小国町(熊本県)に対して、民間資金の調達法を含めた、ノウハウやスキームの横展開が可能である。どの自治体も将来的な財源確保には共通の課題を有しており、本村の取組みが加盟自治体に展開することが期待される。

また、全国の地域に実際に入りアクティブラーニングを提供する、“地域流学型大学さとのば大学”の設立プロジェクトに参画しており、本プロジェクトに参画する、宮城県女川町、島根県海士町、宮崎県新富町とも前述同様に情報の共有や SDGs に関する取組を共有することができる。

その他、本村では年間 79 件、823 人(H29 年度)の行政視察を受け入れており、こうした機会を利用して、自治体 SDGs の普及を行うことができると考える。

さらに、民間資金調達から前述の関係人口創出を目指しており、こうしたコミュニティに対しても、導入予定の「スマホ住民票アプリ」を利用し、SDGs の取組について情報発信が行える。

(海外向け)

本村の百年の森林事業を実践する、株式会社百森は、カナダ、オーストリア、フィンランド等の事業者・大学と交流があり、森林資源を起点とする本村の取組について情報発信が行える。

また行政視察についても、韓国、台湾の受入実績もあり、こうした視察の受入からも、情報発信を行うことができる。

(3) 普及展開性(自治体SDGsモデル事業の普及展開を含む)

(他の地域への普及展開性)

(2)情報発信で述べたとおり、地域外の各市町村と実施する取組がある関係性であり、それぞれの関係自治体が持続可能な地域の実現に取り組んでいることから、情報の共有や普及展開をおこない、ともにSDGsの推進を行うことができる。

また、視察の受入についても、全国の行政、地方議会、企業、大学、自治会、民間団体、国外の大学等と前述行政視察に民間受入を加え約2000人/年(平成29年度)と地域の人口を超える視察を受け入れており、本村の取組を紹介することにより、モデル事業の普及展開を推進できる

(自治体SDGsモデル事業の普及展開策)

本村の取組は、実際に自然資本(森林)を起点にする取組であり、国土の6割をしめる全国の森林の抱える課題を解決し、地域の持続可能性を向上させる実際に行う“事業”である。

そのため各地域に普及展開しやすく、各地域で自地域に合わせた取組に置き直すことが可能である。

また、本村では、民間資金調達の手法について株式会社エーゼロ、森林構成の再編については株式会社百森と民間事業者と連携した取組とする予定であり、これら民間事業者の横展開により、取組を普及展開させることができる。

1.3 推進体制

(1) 各種計画への反映

第5次西粟倉村総合振興計画、及び来年度策定する西粟倉村総合戦略には、2019年度にSDGsの反映を予定している。

また、本村には、2008年着想「百年の森林構想」や2018年着想「生きるを楽しむ」と、そのビジョンとシンボリックなプロジェクトで構成される実践事業が存在し、これらもSDGsを反映させた発信を今後行っていくこととしており、これらの取組を今後明文化する際には、SDGsを反映することとしている。

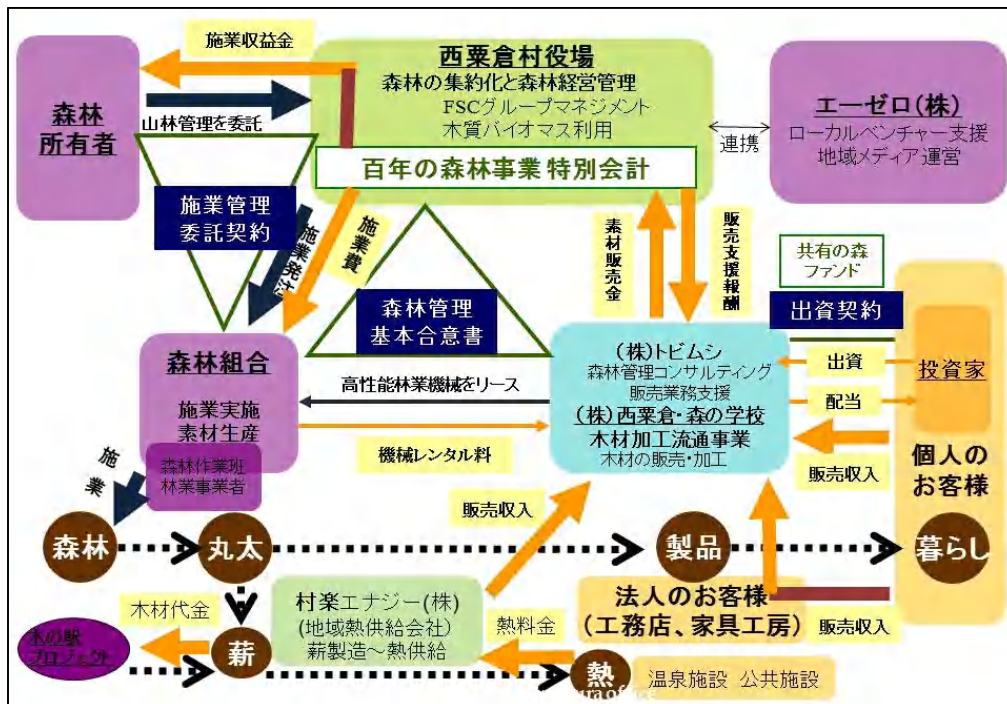
(既に取り組んでいる「ビジョン+プロジェクト実践事業」)

【百年の森林構想】



2008年着想、2009年から事業実施。零細化し、森林整備も滞っている民有林を行政がリーダーシップをとって集約化し、効率的な森林施業を行い森林の健全化を図るとともに、そこから搬出された間伐材を利用した(株)西粟倉・森の学校をはじめとした民間木材産業を興し、付加価値をつけた森林の経済循環を起こす取組み。

【百年の森林構想スキーム】





【ローカルベンチャー】

2013年から取組始めた、“地域の価値を掘り起こした事業による起業＋移住”をテーマに、主に都市部から地域に人材と仕事を呼び込む取組み。2015年から「ローカルベンチャースクール」を開始し、一定の人口社会増を実現してきており、2018年には34事業が地域に存在し、木工等森林関係事業の外、酒屋、デザイナー、ジビエレストランなど、それまで地域に無かった多様な事業が育っている。



[brighten our forests, brighten our life, brighten our future!! 生きるを楽しむ]

2017年、百年の森林構想の着想から10年を経過し、これまで森林をキーワードに産業傾注で地域づくりを行ってきたという観点から、今後は「ひとり一人の人生や暮らし、コミュニティなど“人”にフォーカス」した地域戦略にも注力していくことを決める。

2018年から、教育、福祉、健康などの地域課題を研究、解決コンテンツの創出にローカルベンチャーを活用(ソーシャルビジネスローカルベンチャー)、これまで外部から取り入れてきた人材も「地域に必要な人材は自ら育てる」仕組みも作り出す予定。

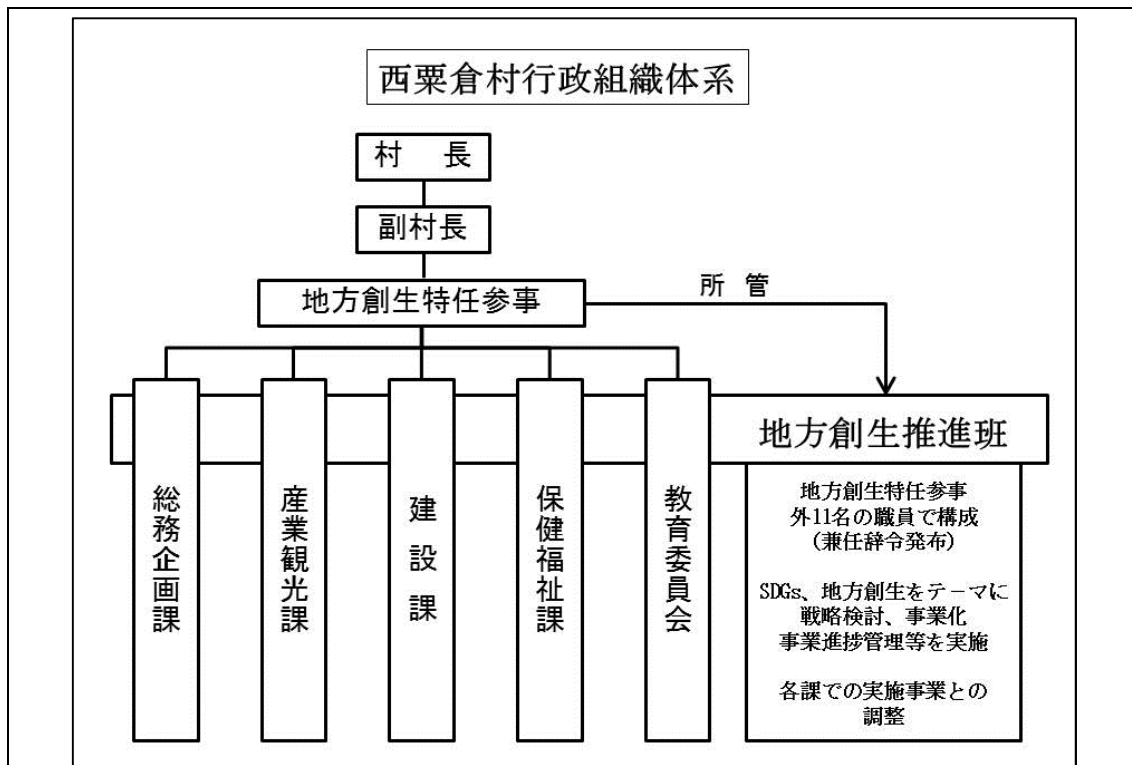
2019年度からは、他地域と連携し株式会社アスノオトが設立する地域流学型大学「さとのば大学」プロジェクトに参画することとしているほか、村の中学生向けキャリア教育プログラム「あわくら未来アカデミー」を設立し、これらを運営するローカルベンチャーを育成していくこととしている。

これらの取組をはじめ、社会資本の充実を実現し、自ら人生を楽しむことができる地域をつくりだす取組を今後行っていくこととしている。

(2) 行政体内部の執行体制

行政職員が40名程度の小さな村役場ではあるが、2017年5月に教育委員会を含めた各課横断の地方創生推進班(地方創生特任参事以下11名の各課所属職員)を組織した。

地方創生推進班は、各課長の上に地方創生特任参事(百年の森林事業、再生可能エネルギー関連事業、ローカルベンチャー関連事業を所管する産業観光課長を兼務)を新設して組織された。参事をはじめ各課から1～3名が所属しており、SDGsモデル事業に関係する事業については、どの課が所管する事業であっても、実施方針の検討、情報、事業実行に関する課題や解決手法の検討など、組織横断的に、スピード感を持ってかつ強力に事業を推進していく体制を構築した。



(3)ステークホルダーとの連携

1. 域内外の主体

1. エーゼロ株式会社

地域の資源を掘り起こし、付加価値をつけて経済活動にすることを社是とする他に類を見ない企業である。

ローカル事務局としてローカルベンチャー事業を推進しており、エーゼロ株の前身の株式会社西粟倉・森の学校の時から、地域外から人材を呼び込む村の人事部的な役割を担ってきた。2013年からは都市部からの「仕事+移住」の村の仕掛人的役割を担い、2015年からローカルベンチャースクールの運営を担っている。

自治体 ICO 実現に向けた取組を村と協働で取り組んでいるほか、自然資本事業部では、うなぎの資源回復に取り組む、地域の自然資源の持続可能性に取り組んでいる。

北海道厚真町、滋賀県高島市でも事業を行っているが、本村を知り尽くし、優秀な人材とネットワークを活かし、これまでも村の様々な事業を担ってきている。

2. 西粟倉村ローカルベンチャー推進協議会

既存のローカルベンチャーの事業拡大を促す役割を果たしている、メンバーには政策金融公庫、地銀、信用金庫の金融機関を始め、地元商工会、行政で構成しており、事業計画の審査やローカルベンチャーにとっての資金調達等のネットワークハブとなっている。

3. 株式会社百森

株式会社百森は、西粟倉村が2009年から開始した「百年の森林事業」の施業計画や集約化の契約促進、搬出材の管理まで、事業の中枢を一手に担う会社として、2017年に設立。今後適正な森林経営を行うことで、人工林を主に適正に管理された山林環境を増やしていく。

4. 三井住友信託銀行

森林商事信託を西粟倉村と共同で商品化。2019年度から運用予定。信託された山林は、株式会社百森に管理委託され、百年の森林事業により施業管理される。

5. 住友林業株式会社

森林商事信託により信託される山林の管理状況について、所有者(三井住友信託銀行)目線のアドバイザーとして参画。

【教育機関との連携】

美作大学(岡山県)、神戸大学(兵庫県)と連携協定を締結。地方でのSDGsの調査研究について、神戸大学、山陽学園大学(岡山県)と連携する予定。今後のSDGsを反映させた課題解決や先進的取り組みについて連携して行くこととしている。

2. 国内の自治体

全国11自治体が加盟するローカルベンチャー推進協議会(代表幹事:岡山県西粟倉村、副代表幹事:岩手県釜石市、参画自治体:北海道下川町、同厚真町、宮城県気仙沼市、同石巻市、石川県七尾市、島根県雲南市、徳島県上勝町、熊本県南小国町、宮崎県日南市)では、定期的に情報交換や各地域における課題の共有や解決策の提案・ブラッシュアップを行う場が設けられており、情報の共有や横展開が容易な環境にある。

また、東京都港区の「みなと森と水ネットワーク」に所属しており、都市部の建築物等に西粟倉村産間伐材を使用することで、百年の森林構想を普及し、森林の整備と経営を促進している。

2019年からは、株式会社アスノオトが企画運営する、地域をめぐるアクティブラーニング「さとのば大学」プロジェクトに、宮城県女川町、島根県海士町、宮崎県新富町と共にプロジェクトに参画することとしており、地域を運営できる人材育成を共創していくこととしている。

3. 海外の主体

オーストリア、フィンランド、カナダの研究機関等と森林施業計画の共同研究を株式会社百森が行うことを予定しており、国際的な情報・知見・技術を取り入れ、効率的かつ有効な森林経営・整備を研究開発し、本村の森林経営を発展させることを目指している。

これにより、モデル的な施業計画を提案、全国の類似地域にノウハウが提供できることを検討している。

2. 自治体SDGsモデル事業 (特に注力する先導的取組)

2.1 自治体SDGsモデル事業での取組提案

(1) 課題・目標設定と取組の概要

(自治体SDGsモデル事業名)

森林ファンドと森林 RE Design による百年の森林事業 ver.2.0

【アピールポイント】

2008年に百年の森林構想に着想、翌年から村の森林施業と民間による林業6次化で構成される「百年の森林事業」が開始される、細分化された民有林を村との長期施業契約の締結により集約化、間伐施業の効率化を図ることで放置されてきたスギ・ヒノキ林の整備を行ってきた。

事業の開始から10年を経過し、村内の百年の森林事業での引受対象山林約3000haの内、約1600ha(約53%)の森林を集約化、管理している。こうした状況の中、更に取組を加速させるため、村が推進してきた森林管理事業を民営化するため株式会社百森を創業支援で立ち上げ、三井住友信託銀行・住友林業株式会社と連携し、都市部の流出所有者へのアプローチとして森林信託事業を2019年度から開始する等引受面積の拡大を目指す。

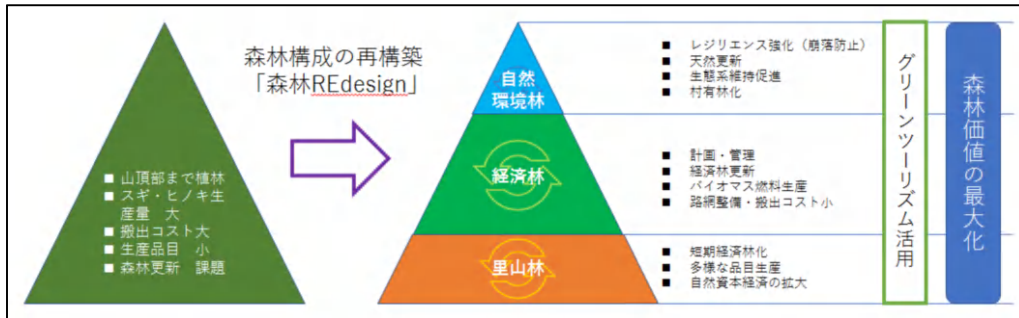
一方、本村の山林について、山頂部まで植林されている状況であるが、地形的制約や所有者の散在から作業路網が届かず整備が行き届かない山林が課題となっている。立木を支える土壌が痩せ、温暖化等による集中豪雨に起因する山頂部からの土砂崩壊災害の発生リスクが高まっている。また、林家の後継者不在や森林管理の放棄により、所有林の村への譲渡を希望する案件も散見されてきている。

このようなことから、森林経営にそぐわない山頂部、河川沿等を自然林化することで、防災、河川環境改善、河川を含む生態系の回復を目指す。このような取り組みには一旦経済森林として経営されてきた民有林を一定経営放棄を促すことになるため、そうした森林については森林の経済価値を判定した上で村が購入し公有林化することで、所有者へ価値の還元を行う。

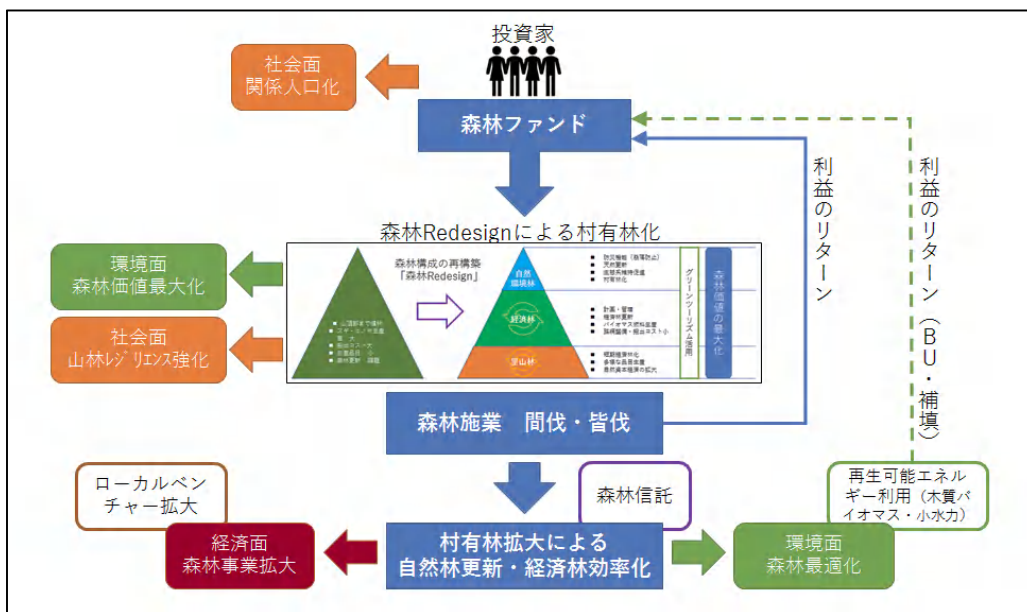
こうした地域の森林経営エリアの最適化を行うことで、地域全体の森林価値の最大化・最適化を目指す。森林構成の再構築(森林 RE Design)を行う中で、山菜や木の実、自然薯等を栽培できるエリアを選定し、山林資源の多様化も同時に行う。

このような取り組みを推進して行く上では資金も必要となり、その資金調達について民間から調達する仕組みとして森林ファンドの組成にチャレンジし、投資家を関係人口として巻き込むことで、再生可能エネルギー、ローカルベンチャー、地域の教育・福祉等その他の地域の持続可能性を向上させる事業にも好影響を与える。

【森林 RE Design のイメージ図】



【百年の森林事業 ver.2.0 のイメージ図】



(課題・目標設定)

- ゴール11 ターゲット11a
- ゴール12、ターゲット12.2
- ゴール15、ターゲット15.2、15.4



(取組の概要)

- 森林 RE Design
 前掲森林構成の再構築を検討実施。一定の村有林化により、諸条件を考慮し、自然林・経済林・里山経済林に機能分化した地域山林経営を計画する。村有林面積を拡大することにより村の山林経営権を拡大。森林施業や年間木材搬出量の村のコントロールで行う量を増大させることで、計画的な森林更新や森林関連事業量の平準化による林業事業体や木材関係事業者の事業安定化を図ることができる。
- 森林ファンドの実施検討


上記森林構成の再編に伴い村有林化する資金を、森林ファンドの組成により賄うことを検討する。対象エリアを現状のまま村有林として購入し施業を行い、伐採収入等でリターンを生む。長期組成となるため、投資家を村の関係人口化する仕組みを準備し、単なる投資家ではなく“西栗倉ファン”として取り込むことを狙う。

■ シナジー効果

上述関係人口化した投資家を、再生可能エネルギー事業、ローカルベンチャー事業などの、地域の持続可能性を高めるその他の事業にも巻き込み、1500人の定住人口以上のサステナビリティを生む地域社会を創造する

(2) 三側面の取組

経済面の取組

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 8, 3	指標: ローカルベンチャーの新規事業数	
	現在(2019年3月): 34事業	2021年: 45事業

ローカルベンチャースクール、ローカルライフラボ(1年間地域課題研究+移住のプログラム。次年度以降ローカルベンチャースクールエントリー者を育成する目的)等地域の外からヒト・コトを呼び込み、また、地域内からも起業や新規事業を促す取組を行い、地域経済の多様化・拡大を推進する。

今後、森林資源の活用をバージョンアップさせることで、森林資源の多様化、木材供給の安定化・平準化を図っていくことができ、ローカルベンチャー事業の多様化・活性化を推進する。

また、老朽化した村有宿泊施設(指定管理)を更新し、拡大させていく関係人口の宿泊交流拠点として整備していく予定。村内木材の利用や再生可能エネルギー導入等本村の特長を盛り込み、村に訪れる関係人口の受入拠点とする。



【ローカルベンチャースクール及びローカルライフラボの募集ページ】




【ローカルベンチャースクールの様子】

(事業費)

3年間(2019～2021年)総額:285,837千円(既計画認定済地方創生推進交付金事業)

社会面の取組

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 4, 7	指標:教育系ローカルベンチャー事業数	
	現在(2019年3月): 1件	2021年: 3件

ローカルベンチャースクール等の取組みがUターンを促進させるほか、福祉・教育・コミュニティといった地域社会資本の価値を掘り起こしサービスを創出する「ソーシャルビジネスローカルベンチャー」を創出し、これらの取組により関係人口の拡大も図ることができる。


今回取り組む「森林ファンド」を含め、ローカルベンチャーたちが広げている地域外の関係人口に向け、「スマホ住民票」アプリを開発しており、村と関係人口をつなげるツールとして活用することとしている。地域と関係人口の多様な関わり方を見える化するとともに、関わり続けるもらう仕組みづくり、関係人口コミュニティを醸成していく。

また、地域人口の減少抑制効果も期待でき、様々な地域・コミュニティの担い手を確保することができる。

(事業費)

3年間(2019～2021年)総額:285,837千円〔経済面の取組に重複〕

環境面の取組

ゴール、 ターゲット番号		KPI	
 15,2 15,4	指標: 百年の森林事業森林施業面積		
	現在(2019年3月): 約1580ha	2021年: 約1900ha	

ローカルベンチャー事業により2017年創業した株式会社百森をはじめとする、森林事業の担い手を創出することにより百年の森林事業を拡大させ、また、2019年度から運用を始める森林信託事業により、長期施業契約引受面積を拡大し森林整備面積を拡大することで、適正な管理がされ、持続可能な森林資源循環の構築を目指す。

近年、相続等に合わせ、森林の経営放棄の相談が散見されるようになり、百年の森林事業の安定化を考慮し、村が森林を譲り受けている。今回の取組ではこうした森林を積極的に受け入れつつ、民有林の森林経営も積極支援しながら、そもそも木材生産に適していない山頂部や河川沿いのエリアを村有林化し、環境林へと更新していくことで、山林や河川の自然資本の劣化を防止・回復ことを目指す。

また、再生可能エネルギーの普及にも取り組み、新たに庁舎、保育園、小学校、中学校、デイサービスセンター等に暖房とお湯を供給する地域熱供給施設を導入、既存の290kw/hの小水力発電所に加え、199kw/hの小水力発電所を新設することで、地球環境に配慮したエネルギーを生み出す地域を目指す。

【百年の森林構想と森林信託スキームのイメージ図】



【西栗倉村の小水力発電構想】

西栗倉第2水力発電所建設構想

固定価格買取制度活用 34円/kWh
 使用水量 0.32m³/sec
 有効落差 74.4m
 発電出力最大 199KW
 年間発電量1,395,000kwh (設備利用率80%)
 年間売電見込額 47,416,000円
 20年間売電見込額947,872,000円
 投資見込額
 発電所建設費+詳細設計費
450,684千円(予定)
 連系工事負担金 20,500,000円



(事業費)

3年間(2019~2021年)総額:467,000千円

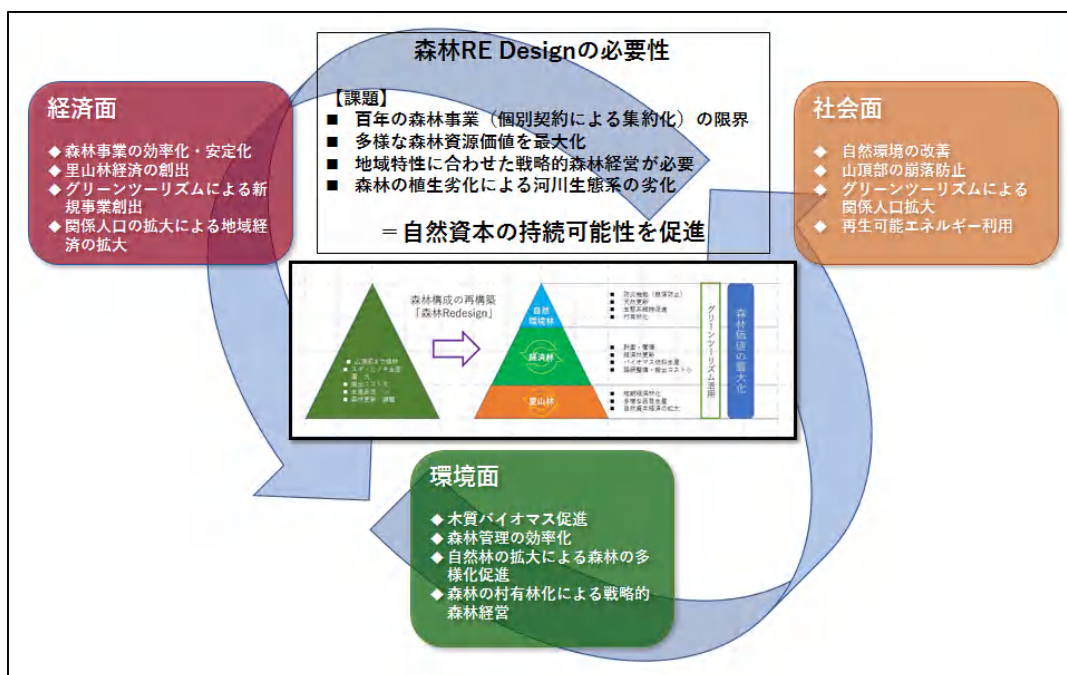
(3) 三側面をつなぐ統合的取組

(3 - 1) 統合的取組の事業名 (自治体SDGs補助金対象事業)

(統合的取組の事業名)

森林ファンドと森林 RE Design による百年の森林 2.0

【三側面をつなぐ取組のイメージ図】



(取組概要)

森林ファンドによる資金醸成と森林 RE Design による地域の森林構成の最適化を行うことで、2009 年から取り組む「百年の森林事業」をネクストステップに移す。森林資源からの価値の最大化を図ることで、環境面だけでなく、経済面、社会面にもアップスパイラルに影響を与える。

森林の再構成に投資家として関係人口を創出、サイクルが長期となるが、デューデリジェンスを行い、リターンを生み出す森林を素材としたファンドの組成にチャレンジする。

ファンドで得た資金を利用し、村の面積の95%を占める、山林の森林を環境と経済に配慮し、レジリエンスを高める再構築を行うことで、地域全体のレジリエンスを高めていく。

本村の地域特性である環境面(森林資源)の取組から始め、そこから発生する木材をはじめ、グリーンツーリズムや体験観光コンテンツなど多様な価値を、その他の取組に取り込み、持続可能な地域社会の創造を目指す。

(事業費)

3年間(2019~2021年)総額:40,000千円

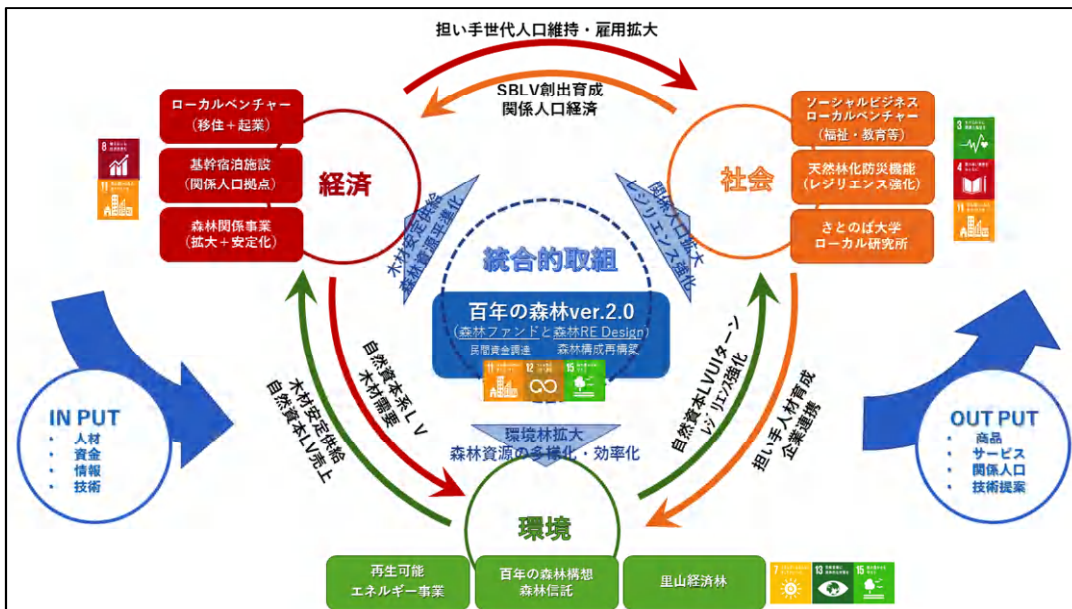
(統合的取組による全体最適化の概要及びその過程における工夫)

百年の森林構想の着想から10年が経過し、その取り組みから創発的に様々な取り組みを行ってきた。

統合的取組は、現在でも様々な取り組んでいる事業の中でも、フラッグシップ事業である百年の森林構想を、10年間進めてきて見えてきた地域山林の課題からネクストステップに移行させる。ネクストステップを実現するための資金調達に、森林ファンドの実現にチャレンジする。投資家を関係人口と位置づけ、巻き込んでいくことで社会面、経済面にも相乗効果を与えることを目指す。

(3-2) 三側面をつなぐ統合的取組による相乗効果等(新たに創出される価値)

〔三側面をつなぐ統合的取組による相乗効果の全体像(様式2の再掲)〕



(3-2-1) 経済 環境

(経済 環境)

KPI (環境面における相乗効果等)	
指標: 年間木材搬出量	
現在(2018年3月): 約 5500m ³ / 年	2021年: 約 8000m ³ / 年

株式会社百森をはじめとするローカルベンチャーにより百年の森林事業の担い手が確保され、搬出される木材を利用するローカルベンチャーの増加や事業拡大等により木材需要や魅力ある森林環境資源のニーズが増加する。このニーズに応える形で森林整

備が推進される。

(環境 経済)

KPI (経済面における相乗効果等)	
指標:自然資本系ローカルベンチャーの売上	
現在(2018年3月): 5.7億円	2021年: 8.4億円

百年の森林事業の施業面積の増加により搬出量の増加及び再生可能エネルギー関連の事業推進による、ローカルベンチャー地域経済の拡大が見込まれる。

(3-2-2) 経済 社会

(経済 社会)

KPI (社会面における相乗効果等)	
指標:40代以下のローカルベンチャー事業による移住者	
現在(2018年度): -人	2021年: +15人/3カ年

「起業+移住」のプログラムであるローカルベンチャースクール等の参加者は概ね40代以下の若い世代である。ローカルベンチャー事業を推進していくことで地域に若い世代が流入し、地域社会の担い手を増やすことができると同時に、事業が地域内に増加、多様化していくことで、労働力需要が高まり、地域内に仕事を生み出していく。

ローカルベンチャーにより地域経済が活性化されると、そこから生み出される商品やサービスを地域に提供できることになり、地域社会が豊かで多様化していくことができる。また、本村で実施しているローカルベンチャー事業だけでなく、広域連携ローカルベンチャー関連事業に取り組んでいくことで、フィールドワーク参加者や、ローカルベンチャー自身のネットワークに属している人達など、本村を知って都市部にいながら村に関わってくれたり、実際に訪れてくれたりする関係人口を拡大することができる。

(社会 経済)

KPI (経済面における相乗効果等)	
指標:ソーシャルビジネスローカルベンチャー(教育分野)の創出	
現在(2018年度): 1事業	2021年: 3事業 【2-2 社会面の取組と重複】

ソーシャルビジネスローカルベンチャーの創出により、経済の多様化と拡大が見込まれる。また、1ターンや関係人口の増加による購買力やローカルベンチャー等地域経済

への労働力が増加する。

(3-2-3) 社会 環境

(社会 環境)

KPI (環境面における相乗効果等)	
指標: さとのば大学の延参加人数 (地域創造人材の育成)	
現在 (2018 年 3 月): 0 人 / 年	2021 年: 20 人 / 3 カ年

地域の課題解決や地域のサステナビリティの向上に貢献できる人材を輩出することを目的としているさとのば大学に参画することとしており、百年の森林事業を推進する本村で、未来の地域の担い手となる人材育成を行う。

(環境 社会)

KPI (社会面における相乗効果等)	
指標: 森林事業、再生可能エネルギー関連事業に関わる UI ターン 者数	
現在 (2018 年度):	2021 年: 10 人 / 3 カ年

年の森林構想の推進による森林整備事業や再生可能エネルギー関連事業を推進していくことで担い手が増加し、地域社会の担い手としても活躍できる人口を増加させる。

また、森林整備による森林環境劣化を防止・回復させることができ、土砂災害等の予防が期待され、地域の安心安全にも寄与することができる。

再生可能エネルギー関連事業の推進により、CO2 排出削減や、森林整備による CO2 吸収量の増加など、本村が環境事業を推進することによる、世界規模の社会環境劣化に寄与することができる。

これらの活動や環境そのものが、地域社会での地域自然環境の持続可能を担う人材育成の場とすることができる。

(4) 多様なステークホルダーとの連携

これまで、西粟倉村は、村内外の民間企業と密な連携体制を構築し、ローカルベンチャー推進協議会等をはじめとした様々な官民連携事業を推進してきた。今後百年の森林事業のネクストステップの推進、ローカルベンチャーエコシステム構築や、アイデア・技術・ノウハウ等を有する民間企業と密な連携体制を構築し、各種事業を推進していく。

【西粟倉村における多様なステークホルダーとの連携の基本姿勢】



団体・組織名等	モデル事業における位置付け・役割
西粟倉村	SDGs 未来都市事業実施主体。SDGs 自治体 ICO については、エーゼロ株式会社を事務局に民間事業者数社と共同して ICO の成功に向けて研究し、実施する。
エーゼロ株式会社	SDGs 自治体 ICO 運営事務局及びホワイトペーパー作成担当、自治体 ICO を共同研究している民間事業者間の調整、ローカルベンチャー事務局を担う。
三井住友信託銀行	百年の森林事業のネクストステップツールとなる、森林商事信託を共同で開発、運用を行う。新たな森林管理手法の創出を目指す。
住友林業株式会社	森林商事信託の開発において、三井住友信託銀行と連携し、森林施業等アドバイザーとして関わる。
神戸大学	神戸大学と連携して SDGs を反映した、“人と自然が共生する持続可能な地域づくり” をテーマに本村をフィールドに研究を予定。
山陽学園大学	SDGs の地域での普及について、2019 年度から村での共同研究を検討している。

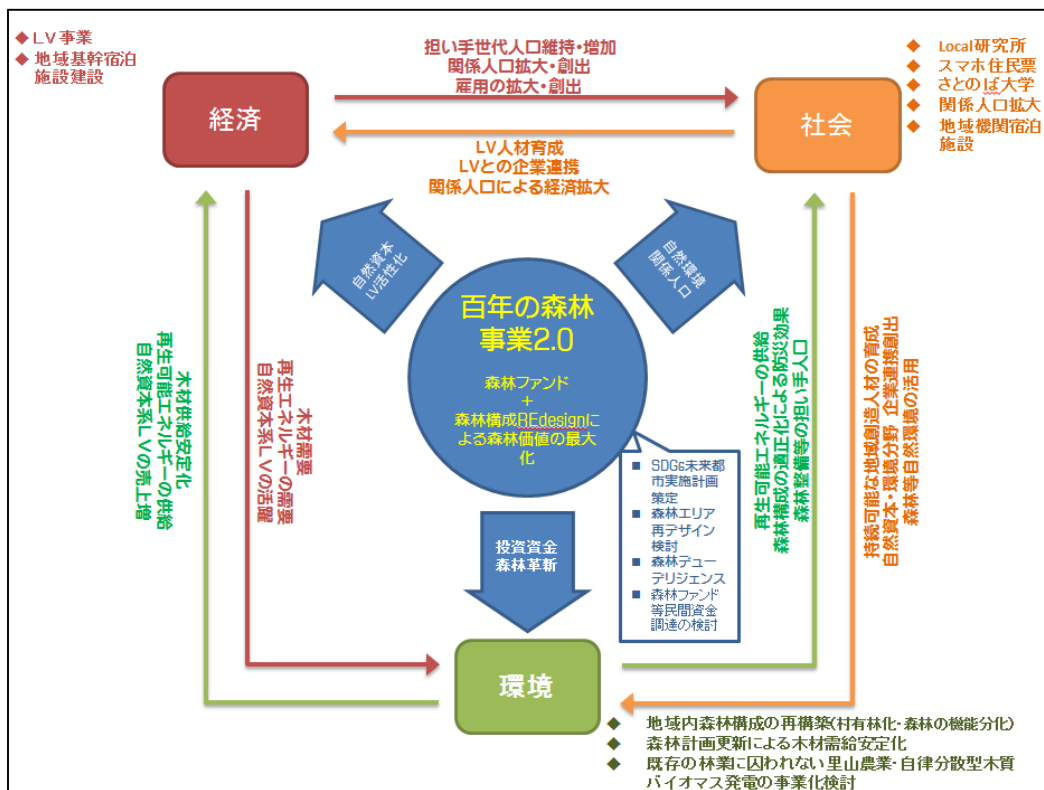
(5) 自律的好循環

(事業スキーム)

森林の持続可能な森林資源の利用とその価値の最大化を図る森林構成の再構築ビジョンとプランを作成する。森林ファンドで集まった資金により、経済林として適していない山林を村有林化する等により、環境林を一定の拡大をさせながら、百年の森事業の長期施業契約と森林信託と合わせ、百年の森林事業の拡大を目指す。

森林資源の持続可能性・資源の最大化と多様化・施業の効率化・効用分化を図り、環境面から経済面・社会面へのアップスパイラルな効用拡大を図り、地域全体のサステナビリティの向上を目指す。

【自立的好循環のイメージ】



(将来的な自走に向けた取組)

最大の課題である、事業を推進する資金については「森林ファンド」の組成により賄うことを目指す。また、森林構成の再構築については、百年の森林事業を担う「株式会社百森」と「百年の森林協同組合」、行政の連携により、持続可能な森林資源の創出を目指す。

資金とプレイヤーを確保し、村行政と連携するとともに、様々なステークホルダーと連携を図っていくことでより良い仕組みづくりを創発的に取り組んで行く。

(6) 資金スキーム

(総事業費)

3年間(2019～2021年)総額:802,837千円

(千円)

	経済面の取組	社会面の取組	環境面の取組	三側面をつな ぐ統合的取組	計
2019年度		158,443	637,000	30,000	835,443
2020年度		127,394	127,000	5,000	259,394
2021年度		0	126,000	5,000	131,000
計		285,837	890,000	40,000	1,225,837

(活用予定の支援施策)

支援施策の名称	活用予定 年度	活用予定額 (千円)	活用予定の取組の概要
地方創生推進交付金	2019～ 2020	285,837	ローカルベンチャー、 ソーシャルビジネスローカルベンチャー
合板・製材生産性強化対策 事業外森林施業補助事業	2019～ 2021	380,000	百年の森林事業
二酸化炭素排出抑制対策事 業(再生可能エネルギー電 気・熱自立的普及促進事業)	2019	40,000	地域熱供給システム
(政府系ファンド)	2019	470,000	小水力発電所新設

(民間投資等)

なし(森林ファンドを実証し、投資家から資金調達する手法を検討・開発する)



	取組名	2019 年度	2020 年度	2021 年度
統合	百森 2.0	事業計画策定 (~8月) SDGs 地域内普及 (~2月) 座組検討 (~9月) ファンド組成検討 (~3月) 森林 RE Design 検討 (~2月) 森林 RE Design 設計実施 (~3月)	ファンド組成 準備(~9月) 森林 RE 実施 準備(~9月)	ファンド組成 森林 RE Design 検証・実
経済	ローカルベンチャーの取組	事業計画策定 (~6月) ローカルベンチャースクール等プログラム実行 (~3月) ローカルベンチャー支援(通年)	前年同様 取組推進	推進交付金終了 取組自走
社会	ソーシャルベンチャーの取組	開講準備 (~7月) さとのば大学実行と事務局起業支援 (~3月) ローカルベンチャー支援(通年)	事務局体制整備 さとのば大学継続	人材育成 LV 起業 さとのば大学継続
環境	百年の森林の取組	百年の森林事業推進 森林信託事業開始準備 森林信託事業開始 (10月~)	森林信託事業推進	

事業名: 森林ファンドと森林 RE Design による百年の森林事業 ver.2.0

提案者名: 西粟倉村

取組内容の概要

- 岡山県西粟倉村は、人口 1,500 人弱の小規模自治体であるが、2008 年より「百年の森林構想」に基づく持続可能な森林施業と林業 6 次化による産業育成に取組み、更に移住 + 起業をコンセプトにしたローカルベンチャー施策、小水力発電・太陽光発電・薪ボイラー・地域熱供給導入等再生可能エネルギー施策と、自治体 SDGs の先駆けとなる取組を進めてきた。
- これら取組を発展させるため、基幹事業である百年の森林事業のボトルネックを解消する「森林ファンドと森林構成の再構築からなる百森 2.0 事業」に取り組むことで、持続的・自律的な発展を目指す。そして、得られた成果を、全国の持続可能な中山間地域モデルとして国内外に発信・共有する。



SDGs 未来都市等提案書添付書類一覧表

【岡山県 西粟倉村】

1. 政策パンフレット
 - 01.西粟倉の芯
 - 02.西粟倉の山
 - 03.西粟倉の人
 - 04.西粟倉の恵
2. 2018年1月25日開催 ローカルベンチャーサミット
案内（プレスリリース資料）
3. ローカルベンチャー図鑑
4. 2019.2.14 森林信託新聞記事（朝日新聞）



WELCOME TO

Nishiwakura



上質な田舎へ。 西栗倉村

西栗倉村は、村として生き残るために、
持続可能な村づくりを考えました。



西栗倉村は村の約95%が森林で、そのうちの85%を杉・檜の人工林が占めます。西栗倉村ではまさに林業が主産業であり、林業の再生こそ持続可能な村づくりには必要だと考えました。その中で立ち上げられたのが「百年の森林構想」。50年も昔に先人たちが1本1本手で植えた木を、100年先の子孫へと受け渡すというのがその根底にある考え方です。現在では、村と民間が繋がって森林を適切に管理し、新たな付加価値をつくれるなど有効活用しながら、経営基盤を確立。間伐材の商品化、プロモーション、情報発信を積極的にを行い、西栗倉村に関わるすべての人がつなごうとすることで、持続可能な村づくりに向けた取り組みを進めています。

2004年、西栗倉村は市町村の大規模合併から離脱し、自立することを決めました。それは、これまでの村の歩みを大切にし、未来へとつなげていくことを考えたからです。村が存続していくために闇雲に人を増やし、規模を大きくする考えはそこにはありません。西栗倉村の考える「上質な田舎」は、ここに暮らす人たちが全員が豊かになり、美しい山々との関係性を築きながら、人生を楽しめる環境をつくること。この村で生まれ育った人はもちろん、新たな可能性を求めて移住されて来る人にも、すべての人にとって上質な西栗倉村をこれからも目指していこうと考えています。



この村に人が増えつつづけているのには理由があります。

西栗倉村では移住者に対する金融的なサポートはありません。しかし、そんな中でも、この村への移住者は年々増えつつづけています。その最大の理由となるのが、1人1人、リターンや起業や企画へのチャレンジを容れ入れていることです。村の基本姿勢は、様々な発想やアイデアを持った人に、その活動の場を提供すること。森の木々が山から切り出され様々なカタチで新たな価値を生み出す中で、西栗倉村の移住者はさらに豊かになりつつづけています。



移住者と関わりながら、小さな行政の実現を目指す。

観光資源がない、イベントをする人がいない、食事をするところがない、お祭りを呼ぶ手段がない。これらをすべて後場で解消するというのはとても難しい考えかたです。長間でできる限りお任せして、行政の間を回すというのでも良い考えかた。ようというのが西栗倉村の考えかた。行政サービスの一環を担ってくださる民間事業者が増えれば、その分資金を地域へと還元でき、小さな行政を実現することができまます。豊かな環境をつくるのは、行政の仕事でもあり、そこに暮らす人の仕事でもあるのです。



未来につながる「上質な田舎づくりを進めています」。

西栗倉村では、「百年の森林構想」を掲げて林業を中心とした取組みに着手してきました。その結果、林業をはじめとした多くの起業家が集まるようになり、村には様々な魅力ある事業が増えてきています。西栗倉村の目指しているのは、森林など環境資本や人のつながりから生まれる社会資本の上に、地域の経済がしっかりと巡ること。時間の流れの中で村に暮らす人が入れ替わりながらも、環境・社会・経済が一つにならうとすることで、持続可能な上質な田舎づくりを進めています。

brighten our forests, brighten our life, brighten our future !! NISHIAKAWAKURA

NISHIAKAWAKURA *People's Voice*



Taishi
Nishiwara

**間伐材を使って
商品をつくるその先に、
さらなる可能性がある。**

西岡太史 [西栗倉・森の学校]

いつか母の故郷である西栗倉に帰りたいと思っていたんですが、きっかけとなったのは森の学校[®]の求人です。村の間伐材を使って付加価値の高い商品をつくり、林業を教うと社長は言っていましたでしたが半信半疑でした。 (笑)それが、原価調査を任せてもらい、自社で製品化し、使えないものはバイオマスに利用する中で、なんとなく方向性が見えてきました。少しずつ人気の商品はできていきますが、「森の学校」も西栗倉村も、もっと可能性を広げていきたいですね。

西栗倉・森の学校 | 原木の調達から製材、乾燥、加工、販売を行う
西栗倉村に根ざしたベンチャー企業。



Taketoshi
Hagiwara

**お互いの理解を深めながら、
西栗倉産の価値が上がれば
うれしいですね。**

萩原武寿 [山主]

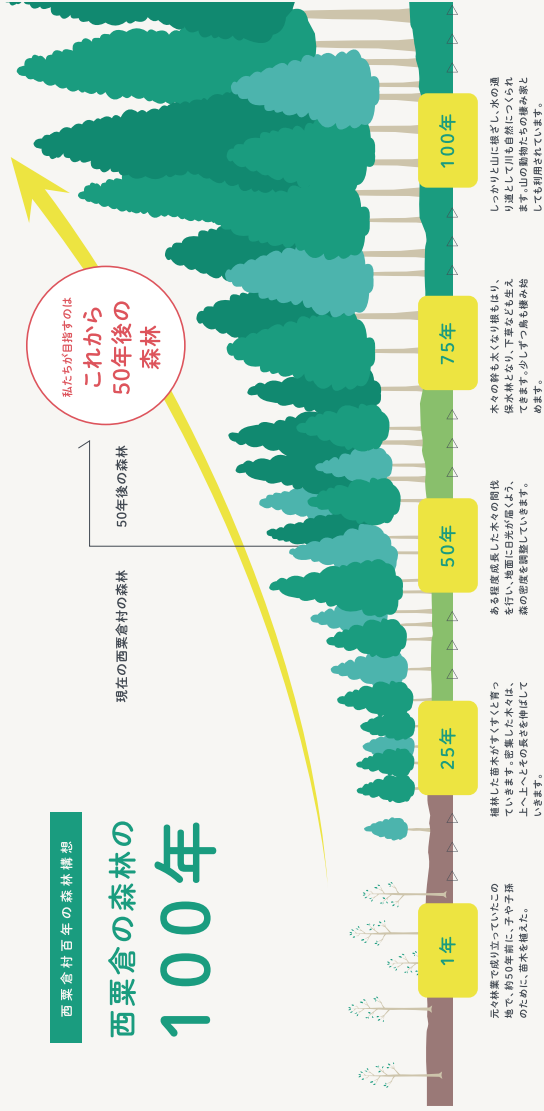
私は5人兄妹なんですが、父親からそれぞれが山を譲り受けました。僕は小さなものを5つか6つ持っている感じ。以前は、自分で山の管理を行っていました。今では「百年の森林構想」に預けています。最初は不満に思うこともあったんですが、話をする中で、少しずついい方向に変わっていきました。山主は自分の山を考えて、役員は村全体を考えて事業を進めていく、お互いが理解を深めながら、西栗倉産の木材の付加価値が上がればうれしいですね。

西栗倉の
山



西栗倉村の、森林構想 「百年の森林構想」

「百年の森林構想」は、西栗倉村が村をあげて掲げる森づくりのビジョンです。先人たちが山に入り一本一本手で植えた木々を、しっかりと未来の子孫へ受け継いでいくためにこの構想は生まれました。総面積の約95%が森林という西栗倉村では、森の再生に未来がかかっていると言えます。50年生にまで育った森の管理をあきらめるのではなく、あと50年頑張っ育て、美しい森林に囲まれた「上質な田舎」を実現することが大きな目標です。「世代を超え、地域を超え、未来への思いを共有する森づくり」という考えが定まり、現在では村人全員に「百年の森林をつくる」という意識が少しずつ根付いてきています。



元々林業で成り立っていたこの地で、約50年前に、子や子孫のために、苗木を植えた。

植林した苗木がすくすくと育ち上へ上へ、思慮した木々は、上へ上へとその成長を伸ばしている。

ある程度成長した木々の間伐を行い、地面に日光が届くよう、木の密度を調整しています。

木々の株も水やりもほり、保水林となり、下草なども生えてきます。少しずつ森も構み始めます。

しっかりと山に植えし、水の通り道として川も自然につくられます。山の動物たちのすみ家としても利用されています。

行政、森林組合、村民、移住者が ひとつになって、 森を未来へと受け継ぐ。



「百年の森林構想」で最も大切なポイントは、「地域資源に付加価値をつけて経済を循環させる」ということです。木を育て、木を切り、里へ運び出すだけでは、何も解決しません。大切なのはその木を製品に加工し付加価値をつけて販売すること。西栗倉村では、まず村が森林所有者から管理の同意を取り付け、さらに「共有の森ファンド」を立ち上げて支援者を増やし、間伐村を加工し製品化できる環境を整え、生産から販売まで林業のサプライチェーンを構築しました。また、その各工程において、地元出身者をはじめリターンする移住者によるローカルベンチャーの力を採用し、行政、森林組合、村民、移住者が一つになって、森を未来へ受け継ぐ体制を実現しています。



POINT 1

いい山を育てるために、 光の差し込む森づくりを実現。

人工林は野放しの状態で放置すると、枝葉が増えすぎて地面に光が届かなくなりますが、その結果、下草が生えなくなり深刻な土砂災害を招く原因になるのです。また、木は密着しているため成長が遅れ、時間がかかって木も育たないのです。木と木との間隔も狭くしてしまいます。それらを回避し、より良い森林をつくるために適切な間伐を行い、光の入る森を維持することが求められているのです。



POINT 2

村役場が中心になって、 地権者の山を一括管理。

西栗倉村では、役場が所有者から森林を預かり、間伐や作業道整備などを行う取り組みを実施しています。これは「百年の森林構想」の中心となる協定で、村の予算で効率的な森林整備を行い、10年間を一区切りとして長期管理を実施。美しい森林を守り、自然の恵みを分かち合えるよう、村全体で森林（もり）づくりを進めています。



POINT 3

ローカルベンチャーと連携し、 森林再生のための商品化を推進しています。

森の再生を通じて地域経済を活性化させるために、様々なローカルベンチャー企業と連携を取り、地域の資源に付加価値をつける活動を進めています。また、百年の森林を実現するための施策として、このビジョンを応援してもらった「共有の森ファンド」を設立。村の中で森林への取り組みを行うのではなく、裾野を広げることで、林業の再生そして共生を考えています。



NISHIAWAKURA People's Voice

brighten our forests, brighten our life, brighten our future!! NISHIAWAKURA



Rio Dokimae

「村で居酒屋しない？
という、ひとことが
きっかけでした。」

道前理緒 [酒うらら]

大学生の時にひよんなことから酒蔵へ取材に行き、つくり手の方と出会ったのが日本酒好きになつたきっかけです。西栗倉に来たのは知り合ってた茶の学校*の方に「村で居酒屋しない？」と言われたから。今は村で酒屋をしながら、出張日本酒バーで各地へ出かけています。最近知名度が上がってきたのか、遠くから呼んでもらうことも増えました。西栗倉は私にとっては一つの拠点。月の半分近くは外に出ているので、逆にここで何か面白いことができたらと考えています。

西栗倉、緑の学校 | 原木の酒蔵から製材、乾燥、加工、販売を行う西栗倉村に拠るしたベンチャー企業。



Takahiro Keyama

Yuichi Hagihara

村を元気にするのは、
役場ではなく
やっぱり人なんです。

上山隆浩 / 萩原勇一 [西栗倉村役場]

僕はローカルベンチャースクールを通して、村役場がやることだと思ひ込んでいた事業を、外の人に任せでもいいんだと学びました。行政が新しいプレイヤーと行動していくことで、新しい未来を描けていけると感じています。

(上山隆浩さん)

想像がつかない事業を提案されてもNGなんて基本的には出さないです。そもそも小さな村で産業や商売が多くないのですから。来てくれるものはすべて新しいことだから、プラスアルファでしかないと考えています。

(萩原勇一さん)



西栗倉の

人

ローカルベンチャーを 積極支援

現在、西栗倉村が力を入れていることの一つに、ローカルベンチャーの支援があります。このローカルベンチャーの支援は、村の中で自然発生的に起こったことです。「百年の森林構想」という軸ができて、林業の6次産業化を目指すという時に、まず村の中から起業する人が現れ、さらに移住者による事業がいくつも立ち上がりました。そんな状況があり、政策的に取り込んでみよという環境が生まれたのです。元々、新しい雇用の生まれにくい地域だったので、ローカルベンチャーの登場によってこれまでにない職種や仕事が増え、移住者の受け入れに向けての後押しにもなっています。

2004年以降、新しい企業として
31社が立ち上がりました。



いろいろな思いを持った人が村内・村外から登壇し、元々0(ゼロ)だったところに31社もの企業(個人事業含む)が立ち上がりました。これまで村になかった仕事、職種、商品、サービスが生まれて来たのは本当に喜ばしい限りです。胸に思いを携った人が村にきて、それを実現して大きく育てていく中で、緑一色だった西栗倉村の彩りがとてもカラフルになってきました。

【新企業名】

- 株式会社 木の里工房 新業
- 株式会社 ようび
- 東の花工房
- 株式会社 西栗倉-森の学校
- 村下図書館
- にしあけくろくさんだんペーパー工房
- 間野重臣画・絵線画
- 特定非営利活動法人 玉座 喫茶サーブの森
- shlabo.
- エーゼロ株式会社
- フレル
- 株式会社 有限会社 小尻組
- IRON&WOOD 工房Kodama
- くんちでん
- クラシカ
- クラシカ不動産
- 株式会社 sonariku
- メヤスズキ
- netttuo株式会社
- 有限会社 ミュウ
- 株式会社 青林
- 株式会社 清勝
- 株式会社 百森
- 株式会社 KUKYO
- しんどう印刷クリニック
- 株式会社
- 株式会社 ミュウ
- 株式会社 青林
- 株式会社 清勝
- 株式会社 百森

新たな事業を考える人に、
様々なサポートを行なっています。



起業支援プログラムとして、

ローカルベンチャースクールを実施。

西栗倉村では、村を拠点に起業や新規事業を考えている方を支援するためにローカルベンチャースクールを開催しています。このスクールの大きな特長は、考えている事業プランを徹底的にブラッシュアップすることです。卒業5か月の期間を通して、後援、メンター、サポーターが一体となって伴走し、事業化をまの届か支援。このスクールをファーストステップに、何人もの起業家が生まれています。



2017年には、ローカルライブラボが設立。

いきなり起業へと進むローカルベンチャースクールと違い、ローカルライブラボは林業・農業・観光・福祉・飲食など自由にテーマを設定し、1年をかけて自分の可能性を検証する場所です。1年目の研究で自分の進むべき道が定まれば、2〜3年目はその研究に基づいた働き方や暮らし方を実践し、起業などに向けた具体的な動きに進んでいきます。ラボに参加するには、プランの採択がありますが、無事に通過すれば活動支援費などの補助も活用でき、研究室の提供やコーチ/ネイターのサポートを受けることもできます。

ローカルベンチャースクール卒業生の様子

年間に20団地の現場を動かすことが目標です。

株式会社 百森 田畑直さん

ローカルベンチャースクールでは、学ぶのはもちろんですが、山主の方であったり林業さんであったり、いろいろな方につながって印象が大きいですね。僕自身はまったく未経験から林業の世界に入ったので、ここでの経験はファーストステップとしても役立つと思います。株式会社 百森は2017年の10月に設立、本格的な活動は翌年の4月で動かせたので、年間に約16団地(現場)を動かしていく予定です。最終的には20団地まで動かせたいと考えています。ローカルベンチャースクールでは、何度も自分と向き合い辛いと感じることもありますが、自分の進むべき道をしかりと構築できたのがよかったですね。



brighten our forests, brighten our life, brighten our future !! West Nishiwakura

NISHIAWAKURA People's Voice



Kōshin
IZIKUSU

バイオマスに携わる
プレイヤーになって
みたかったんです。

井筒耕平 (sonraku)

大学院を卒業して環境コンサルティングの仕事をしてい
たのですが、いくら計画を立てても実際にやる人がいな
いと何も変わらないと思ったんです。それで、一度プレイ
ヤーになってやろうと思った西栗倉にきました。現在は
「あわくら温泉 元湯[®]」を運営し、そこで薪ボイラーを
使っています。一般の方にバイオマスって言うても興味を
持ってもらえないけど、「温泉」なら興味を持ってもらえま
すからね。今後はバイオマスについてはもちろん、いろん
なカタチで森と関わる人が増えてらうと思いますね。

あわくら温泉 元湯 | 宿泊をはじめ、ご飯を食べて日帰りもできる。
sonrakuが運営する天然温泉のゲストハウス。



Keizo
Shirahata

西栗倉村が、世界をリードする
モデルになっていければと
思っています。

白旗佳三 [西栗倉村役場]

西栗倉村でやっている再生可能エネルギーの二本柱は、
小水力発電と木質バイオマス。これらを村の資源として
一般家庭でも使ってもらえるように、補助支援なども含め
て取り組んでいます。目標は再生可能エネルギーで、村
のエネルギー自給率を100%にすること。と言っても、まだ
まだ問題は多いですけどね。(笑)再生可能エネルギーの
普及は世界の目標でもあるので、玄圃で安心なエネルギー
自給を要領して、西栗倉が最先端のモデルのようになって
いければと思っています。

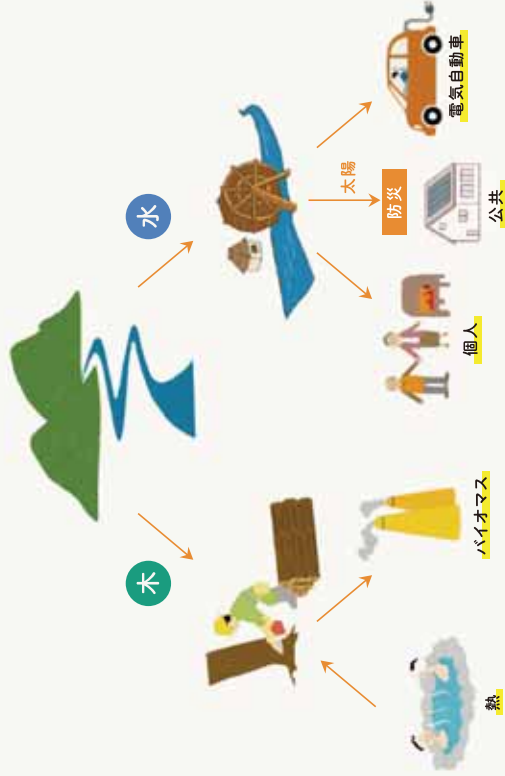
西栗倉の
恵



地域資源のある 暮らし

西栗倉村の地域資源といえば、やはり「木」が主役です。ここでは、山から取り出される木をカスケード利用し、木材や家具となるもの、合板やチップとなるもの、そして最終的に残るものをバイオマスに使用しています。百年の森林を事業として進める上で、木を無駄なく使い切ることはとても重要なポイント。この他にも、小水力発電や太陽光発電システムを積極的に取り入れるなど、再生可能エネルギーの導入を通じたCO₂削減の推進から、西栗倉村は国の定める「環境モデル都市」に認定されています。

再生可能エネルギーを考えるには、
5つのことが重要になります。



再生可能エネルギーを導入するには、1地域性、2低位性、3収益性、4実現性、5継続性といった側面を考える必要があります。これは、地域にあるものを活用できるか(西栗倉村なら森林や川)、コスト面のメリットはあるか、利益を得ることができるか、人が配置できるか、ずっとつづけることができるか、ということです。これらが満足に実施でき、はじめて低炭素社会を実現できると考えています。山で木を切る人、それを運び出す人、商品に加工する人、最終的に燃やしてエネルギーに変える人、西栗倉村ではそれぞれのポジションが連携を築ることで5つのテーマを満たし、バイオマスだけでなく小水力発電なども合わせながら、自然と暮らしがつつながりあり理想的な環境を実現し、結果的に地域の低炭素化を推進しています。

西栗倉村は将来的に
エネルギー自給率100%を目指します。



バイオマスボイラーが

小さな経済効果を生み出しています。

現在、西栗倉村では、バイオマスボイラーを使って木を熱に変えています。その熱はすべて村の温泉水を温めるのに利用。範囲は小さなものですが、ここで年間20万リットル(ドラム缶約1,000本分)の灯油を削減でき、その分が木の購入に回ることで、村内に小さな経済効果をもたらしています。



小水力発電で得た利益を

家庭への再生エネ・省エネ導入の補助金に

西栗倉村では、1966年から小水力発電を導入しています。2014年には老朽化に伴い発電施設の全面改修を実施。現在は、年間の約7,000万円の発電収益をあげています。このエネルギーから得た利益の一部は、村内の集会所での再生エネ・省エネの補助金として活用。ペニアオラスや冷感庫などの家産の(再生エネ・省エネ)設備導入に利用できるようなっています。このように様々な再生可能エネルギーを組み合わせて、将来的にエネルギー自給率100%を実現するのが目標です。

西栗倉村の活動は、
国際社会共通の目標である
SDGs(持続可能な開発目標)に
重なっています。

「SDGs(エスディーゼス)」とは、Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略で、2015年9月の国連サミットで決められた国際社会共通の目標です。17のゴール(目標)と169のターゲット(具体目標)の中には、西栗倉村の取り組みに重なる部分も多く、今後この中国山地の真ん中から持続可能な社会の実現に向け取り組んでいこうと考えています。



1年で新規事業創出14件、1億9293万円の売上増！ 「ローカルベンチャー・サミット」のご案内

地方創生の最先端を行く全国10市町村の首長、 地域で活躍するベンチャー・大企業が集結 ～1月25日（木）14時15分より溜池山王にて開催～

ローカルベンチャー推進協議会（事務局：NPO法人ETIC.）は、全国10市町村が連携し、地方創生の核となる「地域での起業・新規事業（ローカルベンチャー）」を創出するためのプラットフォームとして、2016年秋に誕生しました。来る1月25日、事業開始1年半の成果発表会を開催します。「地方創生の最先端を行く」と言える革新的な施策に取り組む10自治体の首長クラスが一堂に会し、互いの成功事例を発表しあう貴重な場になります。ご多忙中かとは存じますがぜひご来場いただき、地方創生の現場の声をお聞きください。なお、ご参加の場合は1月24日（水）17時までに、4枚目のFAX返信用シートに必要事項を記入の上、ご返信下さいますようお願い申し上げます。

※当初2017年10月23日（月）の開催予定でしたが、台風の影響で延期となり、このたび日を改めて開催する運びとなりました。

■ローカルベンチャー推進協議会 参加自治体（カッコ内はサミット登壇予定者）

代表幹事	岡山県西粟倉村（青木秀樹村長）		
副代表幹事	岩手県釜石市（野田武則市長）		
会員	北海道下川町（谷一之町長）	石川県七尾市（岡野崇副市長）	
	北海道厚真町（宮坂尚市朗町長）	島根県雲南市（藤井勤副市長）	
	宮城県気仙沼市（菅原茂市長）	徳島県上勝町（花本靖町長）	
	宮城県石巻市（阪井聡至復興担当審議監）	宮城県日南市（崎田恭平市長）	

※公務のため変更になる可能性がございます。

■地方自治体と大企業の連携事例 登壇企業

- ・ ハウス食品グループ本社株式会社（石川県七尾市との取り組み）
- ・ 三井不動産株式会社（北海道下川町との取り組み）

■開催概要

「ローカルベンチャー・サミット」

～地方創生の最先端を行く自治体首長と描く、新しいローカルのあり方～ ～企業と地方自治体の連携から考える地方の未来～

【日時】 2018年1月25日（木）14:15～16:30 ※受付開始 13:45～

【場所】 公益財団法人 日本財団 1F（東京都港区赤坂1丁目2番2号日本財団ビル）
<https://www.nippon-foundation.or.jp/who/about/access/>

【主催】 ローカルベンチャー推進協議会

- 【内容】
1. メディア向け写真撮影
 2. 各自治体の1年間の事業成果発表（各自治体3分程度の発表）
 3. 自治体と連携している企業の発表
 4. 質疑応答
 5. 名刺交換、ネットワーキング

【Web】 <http://initiative.localventures.jp/summit2017/>

＜お問い合わせ＞ 「ローカルベンチャー・サミット」 広報事務局
株式会社コミュニケーションデザイン 担当：落合、本多
TFI 03-5545-1661 FAX 03-5545-1662 E-mail ochiai@cd-i.net

■ローカルベンチャー推進事業の目標

『地域に新たな経済を生み出す「ローカルベンチャー」を輩出・支援する』

■本事業の特徴

- ・自治体が広域連携でプラットフォームを構築、お互いの事例に学び（ナレッジシェア）、人材・資金を取り合うのではなくパイ自体を広げるために協働する
- ・各自治体は、その地域の民間パートナーとともに参画
- ・国の地方創生推進交付金（まち・ひと・しごと創生交付金）対象事業
- ・参加自治体は今後増加予定

- ・ **■初年度の成果** ※当日はさらにここ半年の成果もご報告致します。
- ・ 創業支援、事業成長支援によるローカルベンチャーの売上増額分 … 1億9293万円
- ・ 新規事業創出 … 14件
- ・ 求人エントリー … 84名
- ・ 起業型人材のマッチング … 40名
- ・ 都市部人材との接点機会 … 1224人
- ・ ローカルベンチャーラボ Facebook ページ（本事業にて運営）への「いいね！」 … 4600件

■ローカルベンチャー推進協議会参加自治体と企業との連携事例

1. 「街づくり会社」で社会人インターン。地域活動を通じた人材育成…ハウス食品 × 石川県七尾市

ハウス食品グループ本社株式会社の人材開発研修「社会課題解決を通じたリーダー育成プログラム」で、社員3名が通算4ヶ月（2015年10月～2016年2月）、七尾市に『移住』。民間まちづくり会社に所属して、地元の中小企業と都心部のプロフェッショナル人材との交流を通じた次世代のネットワークづくり、地域の資源を使った新商品の開発や新規事業立ち上げ支援を行った。参加した社員のうち1名は、研修終了後も七尾市のローカルベンチャー推進事業に関して助言するなどプロボノ的な関わりを継続。地域活動から得た知見を、ハウス食品グループにおける「新規事業開発」に活かしている。同時に、ローカルベンチャーラボ（※）も受講。地方の課題解決と、都心企業の人材育成を同時に行うビジネスモデル開発を目指している。（サミット当日に事例紹介いたします。個別取材可。）

※ ローカルベンチャー推進協議会および同事務局を務める NPO 法人 ETIC. が設立した半年間の起業家育成プログラム

2. 森林の保有・管理を通じた CSR 推進 … 三井不動産 × 北海道下川町

三井不動産が掲げるスマートシティのコンセプトが、下川町の「持続可能な地域社会の実現」という取り組みに通底していることから、「終わらない森づくり（森林の適正な管理と活用）」を基軸とする持続可能な地域社会の実現を目的とした協定を締結（2017年7月）。下川町内の11.56haの森林の保有・管理を三井不動産が子会社を通して行い、保有林材の一部を住宅・オフィスビルなどの内外装材へ利用。また、この森林からはトドマツの葉を蒸留してエッセンシャルオイルを抽出し、三井不動産のノベルティを作成した。（サミット当日に事例紹介いたします。個別取材可。）

【当日取材可能な人物とフォトセッションについて】

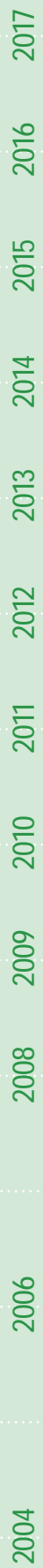
当日は、14時15分より、登壇者のスケジュールの関係でフォトセッションを始めに行ったら後に、14時30分より事業成果発表に移らせていただきます。当日は、各自治体担当者への取材の他、企業事例として登壇する下記企業の担当者への取材も可能です。

- ・ ハウス食品グループ本社株式会社
- ・ 三井不動産株式会社

地方自治体の取り組みだけでなく、首都圏の大企業が地域の資源を生かしてどのようにローカルビジネスを展開しているか、現場の声を聞くことが可能です。

(人)
70
60
50
40

転入者数



合併しないことを選択

百年の森林構想

百年の森林事業

百年の森林事業

村の取り組み

再生可能
エネルギー事業

- 環境モデル都市認定
- 新ハイラーあわくら温泉元湯設置
- バイオマス産業都市認定
- 新ハイラーあわくら荘設置
- 西栗倉発電所 めぐみリブレイス
- 新ハイラー黄金泉設置
- エネルギーセンター着工

ローカルベンチャー推進事業

- ローカルベンチャースクール開始
- ローカルライブラリ開始

木の里工房木蔵



ようひ



西栗倉・森の学校



間野憲正高+結構堂



サマーの家



sonraku

ソメヤスズキ



フレール



瀬うらら



montino oto



エーゼロ



notuo



クラシカ



クラシカ不動産部



es



ミユウ



青林



清勝



百森



ローカルベンチャーで働く人数
180人
正社員、契約社員、パート、アルバイト・地域おこし協力隊含む

西栗倉村と

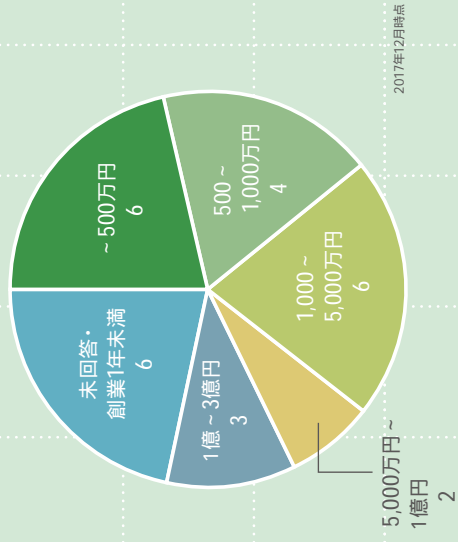
ローカルベンチャーの歩み

年表
で
見る

LV・新規事業スタート

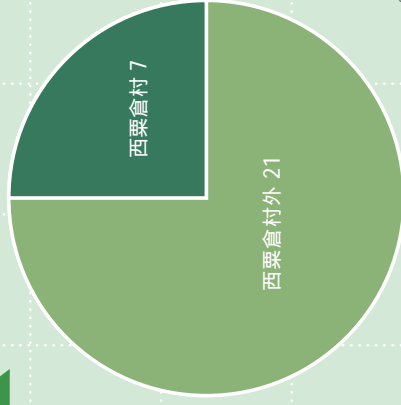
ローカルベンチャー

売上規模



2017年12月時点

出身地(代表者)

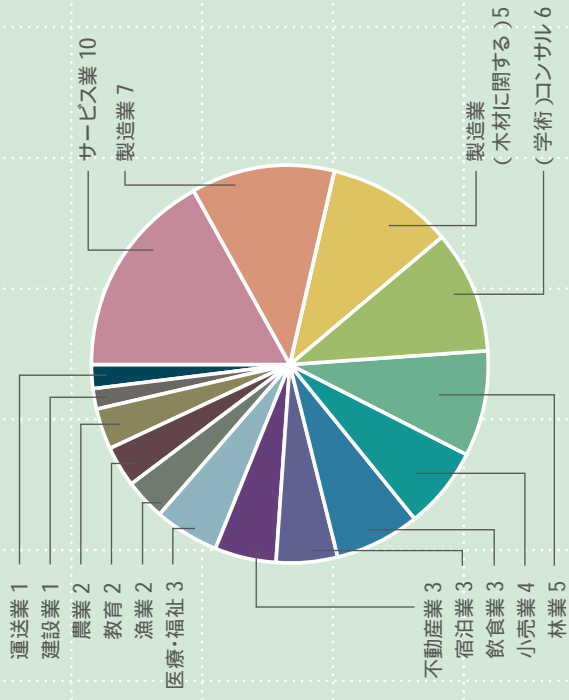


2017年12月時点

数字で見る

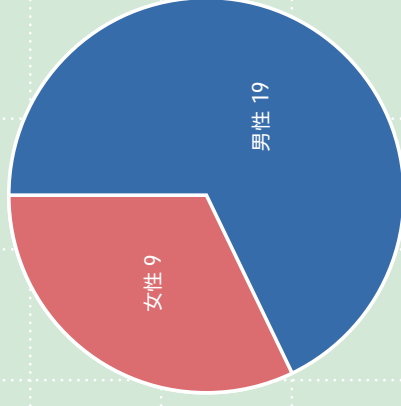
西栗倉村のローカルベンチャー

事業内容 (27事業体・56事業)



2017年12月時点

男女比



2017年12月時点

「男女比」出身地(代表者)は、株式会社百森が共同代表のため、合計で28人/27社となっています。

西栗倉

ローカルベンチャー

一覧

Nishiwakura Local Venture List

創業年月
スタッフ数
事業内容
ホームページ



株式会社木の里工房木薫



代表 | 園里 哲也
2009年10月
31名
森林の製造業 / 林業 (株)
保野町向け家具・道具
<http://www.mokunori.com>



株式会社よつび



代表 | 大島 正幸
2009年12月
15名
家具製造販売
デザイン・企画
建築設計施工
<http://youbi.me/>



株式会社
西栗倉・森の学校



代表 | 村 大介
2009年10月
31名
木材の製造業 / 卸売・小売
業 / 流通 / 補修・研修
<http://morinogakko.jp>



軒下図書館



代表 | チャールズ・相美
2010年5月
5名
語学教室 / パン屋 / 宿泊 /
ヨガ教室 / ソーイング(手芸)
<https://www.nokishita-tos.hokan.com>



関野意匠室 + 絡繰堂



代表 | 関野 倫宏
2011年4月
1名
玩具・生活雑貨の製作・販売
<https://sdrara.jimdo.com>



特定非営利活動法人 芝桜
喫茶サーアの家



代表 | 井上 早苗
2012年7月
1名
飲食業
<http://sanae6885.wixsite.com/sa-nanoie>



ソメイアズキ



代表 | 鈴木 菜々子
2012年3月
2名
草木染め布製品の製造・販売
<http://someyasuka.com>



フレル



代表 | 山田 哲也 / 西原 貴美
2013年4月
2名 / 飲食業
木工 / 販売業
<https://www.tureu.com>



粟食漆器尾崎漆工房



代表 | 尾崎 正直
2013年6月
1名
漆器・漆器の製作・修理
なし

株式会社岡田林業



代表 | 岡田 昌俊
2013年9月
6名
林業 / 運送業
なし



酒うらら



代表 | 道前 理緒
2014年4月
1名
酒販売
出張日本酒バー
<http://sakeurara.com/ind-ex.html>



noittuo株式会社



代表 | 鈴木 宏平
2016年12月
2名
デザイン業
空間設計業
<https://noittuo.com>



有限会社小松組



代表 | 小松 隆人
1908年5月
8名
土木事業
障子の修繕・解体事業
空き家管理事業
<http://komatsugumi.jp>



mori no oto



代表 | 石川 照男
2014年9月
3名
木製家具・おもちゃの製造・販売 / 楽器制作ワークショップ企画・運営
<http://mori-no-oto.com>



特定非営利活動法人
じゅ〜く



代表 | 大橋 平治
2014年3月
13名
就労継続支援B型
相談支援事業所
放課後等デイサービス
なし



IRON & Wood
工房Kodama



代表 | シェイクンワイルド・
フレイバー・オハワード 運移: Lila)
2015年8月
1名
木と鉄の家具 / 雑貨等の製作
<https://www.kodamaliving.com>



ablabo.



代表 | 黒木 由佳
2014年9月
2名
油断販売・販売
<http://ablabo.org>



エーゼロ株式会社



代表 | 坂大介
2015年10月
30名
ローカルベンチャー育成事業
/ 関係人口創出事業 / 観光不動産事業 / 自然資本事業
<https://www.zeiro.co.jp>



クラシカ



代表 | 三宅 翼子
2015年4月
2名
旅館業 / 飲食業 / 古物商
<https://kurashika.com>



クラシカ不動産部



代表 | 三宅 翼生
2016年12月
1名
宅地建物取引業
<https://www.zennichi.net/m/kurashika/>



くんちでん



代表 | 寿名 悠都
2016年12月
2名
飲食業
なし



ablabo.



代表 | 黒木 由佳
2014年9月
2名
油断販売・販売
<http://ablabo.org>



帽子屋 UKIYO




代表 | 山口 千夏
2016年9月
1名
帽子の製造・販売
<http://ukiyoboushi.net>

いとう歯科クリニック




代表 | 伊藤 美和子
2016年10月
4名
歯科
なし

株式会社百森






代表 | 中津照太郎 / 田畑 直
2017年10月
5名
西粟倉村における山林の管理
<https://www.hyakumori.com>

西粟倉村役場




代表 | 清水 秀樹
1900年4月
46名
西粟倉村をよくすること
<http://www.vill.nishiwakura.okayama.jp/>

es株式会社

代表 | 杉山孔太
2017年9月
4名
アツビの脱上閉鎖 循環販売
<http://www.e-s-inc.com>

株式会社ミュウ




代表 | 深部 真佳
2017年4月
5名
いちごの加工製造・販売
いちごの新品種の加工実験・登録までのアドバイス
<http://ichigonomise.com>

株式会社青林




代表 | 清水 昭浩
2017年9月
10名
素材生産(林業)
なし

株式会社清勝




代表 | 小川 勝也
2017年9月
4名
素材生産(林業)
なし

**brighten our forests,
brighten our life,
brighten our future !!**

生きるを楽しむ **team Nishiwakura**

西粟倉の7月の森林ではヒメコマユキが舞う。
ヒメコマユキは冬でもよもぎらい光。
けれども小さくても強い光が舞って自ら見せる素敵な風景が広がっている。
この村に暮らす人の心も同じ。
そしてより、ヒメコマユキの会社が輝く。
その光の輝きを社としてこの村の未来が輝いていく。

荒廃ストップ「森林信託」

三井住友信託銀行、岡山・西栗倉で新商品



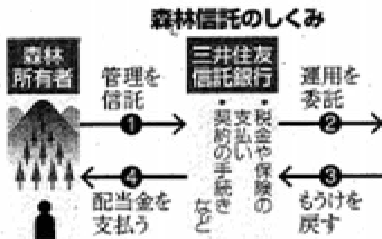
木材の出荷作業の様子。岡山県西栗倉村は信託のしくみを使って、森林を管理・活用していく考えだ＝同村提供

管理・相続が容易に

相続などを機に管理されずに荒廃する森林をなくそうと、三井住友信託銀行と岡山県西栗倉村が新たな信託商品をつくった。森林を所有者から預かって運用するしくみで、国内金融業では初めて。「森林信託」は2019年度から村内の森林を対象に始め、他の地域でも条件が整えば進めたいという。

同村は兵庫、鳥取の両県境に接し、人口約1500人。面積の9割以上を森林が占める。08年に「百年の森林構想」をつくり、地域づくりを進める森林(林業)経営の先進地の一つとされる。この10年でスギやヒノキの丸太の産出量を10倍に、関連産業を含めて約

180人分の雇用をつくり出すなどした。だが、所有者の相続や村外への転出、高齢化で森林の管理が行き届かず、所有者と連絡がつかないなど全国共通の課題も抱える。森林信託は、まず所有者と同行が契約を結んで森林



の所有権を同行に移す。そのうえで、同行が所有にかかる税金などを払うとともに、森林の管理を村の森林管理会社「百森」へ委託。百森は、木材の出荷などで得たもつけを手数料などを除いて戻し、所有者に配当金として支払うしくみだ。標準の信託期間などの詳細は販売開始までに決める。間伐や作業道整備にかかる費用の一部は村が補助するという。

主な販売先は、相続で親族の森林を引き継ぐなどした村外在住者たちだ。森林信託を使えば、所有者(委託者)はノウハウのない森林管理を任せられ、相続に伴う面倒な手続きを軽減できる利点があるという。村



ドローンで測量

ドローンによる測量技術の発達が、今回のしくみを後押しした。信託契約を結ぶには、預かる財産を詳しく特定する必要がある。森林ならば、1本1本の樹木や太さなどが必要で「今までは膨大な手間と費用がかかり、信託商品にしよ」と誰も思わなかった(同行幹部)という。ドローンによって森林の価値を測る精度が高まった。

同行にとって、森林信託は国連のSDGs(持続可能な開発目標)の活動の1環という側面もある。まずは条件の整った西栗倉村で始め、将来は販売先を広げたい考えだ。(伊沢友之)

理・縮小と目米地位協定の

月1日現在の選挙人名簿登

いえば」を含め賛成が25・